

建築人

2014





大阪ホンマもん

建築人

7
2014

目次

38	32	30	29	25	18	6	4	2																																											
理事会報告	建築相談	編集後記	匠の巧	外壁を真っ白なキャンパスに	吉野石膏株式会社	建築の射程	坂野昌弘	「インフラの維持管理」について	東大阪橋梁維持管理研究会の取り組み	第6回建築人賞入賞発表	記憶の建築	松隈洋	八幡市民会館	1958年	村野藤吾を育んだ八幡の建築遺産	Gallery	建築作品紹介	湖塘橋実験小学校 (Hutangqiao Experimental Primary School)	基本設計・実施設計監修	徳岡設計	実施設計	常州睿嘉建築設計有限公司	東近江市本庁舎新館 (増築棟)	設計監理	徳岡設計	建築施工	奥田工務店	かもしか荘	設計監理	徳岡設計	建築施工	奥田工務店	三井ガーデンホテル京都新町別邸	設計監理	徳岡設計	建築施工	奥田工務店	基本構想	アーキテクツオフィス	設計・施工	竹中工務店	岩谷産業株式会社いづみ寮	設計	大林組大阪本店一級建築士事務所	施工	大林組	とうふく布施	設計	二井清治建築研究所	施工	花谷建設

建築士会活動に思うこと

大阪府建築士会 副会長 田中義久
(株式会社田中市建築事務所代表取締役)

私の自慢は、大阪士会に入会して三二年、その間大阪士会・近畿建築士協議会・連合会の青年委員長を拝命し、その後担当理事として様々な活動に参画できたことである。

前半の青年時代は、バブル経済を背景に多数の企業協賛で、有名建築家の展示会や講演会などビッグイベントを企画開催することができた。反面、御堂筋の百尺規制緩和やゴミ・環境問題など、社会問題の掘り起こしをする姿勢も忘れなかった。また「障害者のためのまち建築」は当時の近建青で複数年研究テーマとしてとりあげられたが、その活動は私を社会的弱者を対象とする福祉施設建築の参入に導いてくれたのである。

建築は社会動向のうねりに大いに影響を受けるのであるが、では近年ではどのようなことがテーマとして浮かび上がるのだろうか。

景気低迷の中で行われた設計建設業界の再編成により熟練技術の継承の阻害、安全・安心、そして持続可能性などの社会的価値観の変化、少子高齢社会や女性参画社会への移行の体制研究などが挙げられる。

建築士会の設立目的は建築士法に明記されている。その時々テーマをそれら目的に沿った切り口でイベントを興し、より深くそのテーマを掘り下げて世に問うことが、建築士会活動の有意性ではないかと私は考えている。

現在、大阪士会は内向きだけでなく外向きにも積極的なアピールを始めている。内に着実性を求め、そして外に親しみ表わす、一般市民に頼り甲斐と親近感を感じてもらえるような関係づくり、士会活動を通してそのような姿になることを願うものである。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大正時代に入ると、地下鉄御堂筋線建設と合わせて御堂筋の道路拡幅工事が進められた。そのほぼ中央に位置するのが「大阪瓦斯ビルディング」。

設計は安井武雄建築事務所(現安井建築設計事務所)が担当し、施工は大林組。構造はSRC造地上八階、地下二階建てで、竣工は昭和八年(一九三三年)。

しかし、昭和一六年(一九四一年)に太平洋戦争が勃発。昭和二〇年(一九四五年)の大阪空襲では、御堂筋一帯も焼け野原となった。ただしこのビルは七、八階の一部を罹災しただけで大きな被害は免れた。その後、高度成長期を迎え、昭和四一年(一九六六年)には安井武雄氏の後継者である佐野正三氏による設計で北館が竣工。新旧両ビルは見事な一体化を果たし、御堂筋におけるランドマークと位置づけられた。

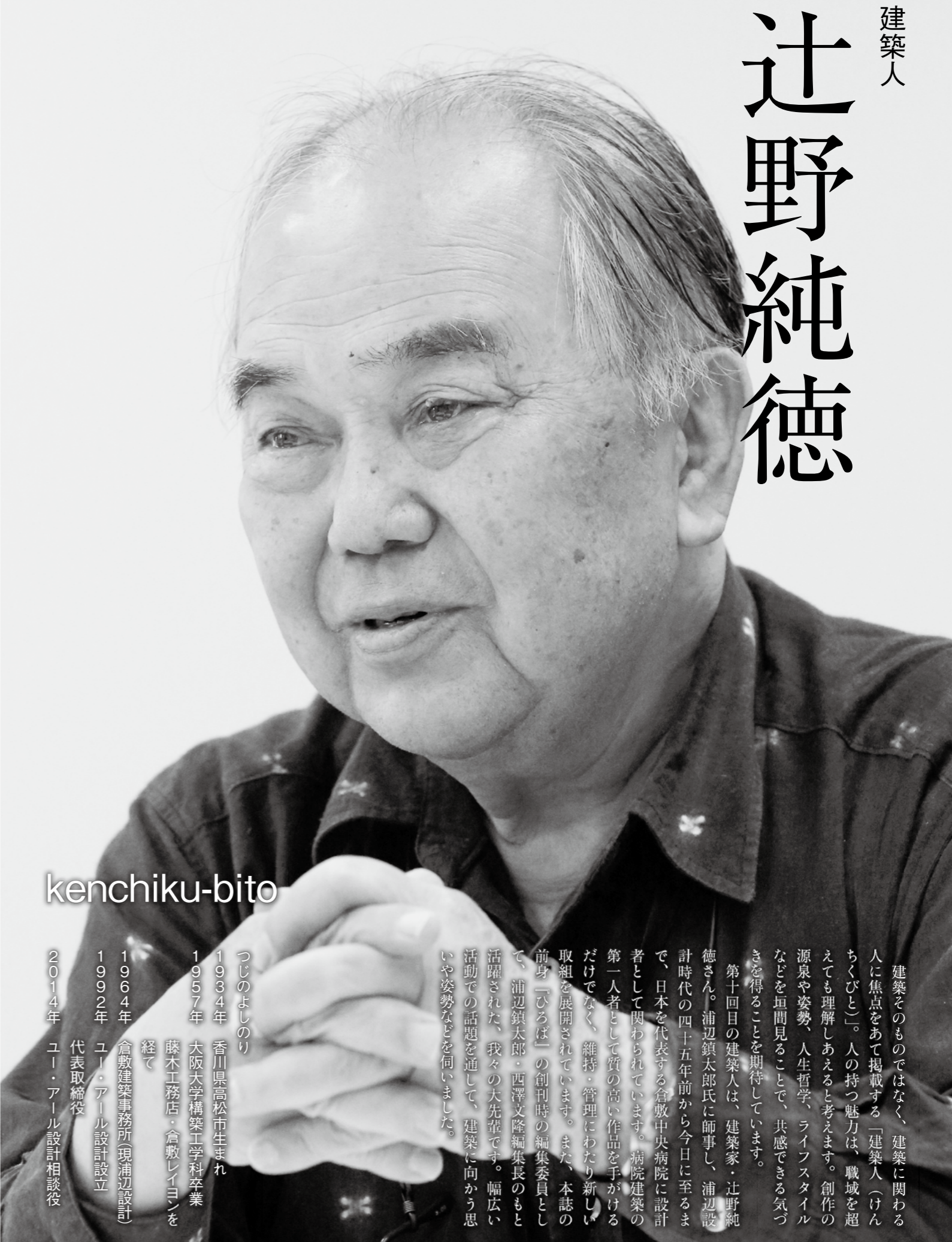
近年は御堂筋沿いに高さ三mを超えるビルも建ち始め、美しい御堂筋は失われつつある。しかしながら、都市の中にあつてこのビルの伸びやかな水平ラインは、今も安定した秩序をもたらし、少しも光が失われていないことを示し続けている。

建築人 7

2014

監修 公益社団法人大阪府建築士会
建築情報委員会
編集 建築情報委員会『建築人』編集部
編集人代表 米井 寛
編集人 荒木公樹 飯田英二
河合哲夫 筑波幸一郎
中江 哲 橋本頼幸
牧野隆義
事務局 山本茂樹 母倉政美
印刷 中和印刷紙器株式会社

辻野純徳



kenchiku-bito

建築そのものではなく、建築に関わる人に焦点をあて掲載する「建築人（けんちくびと）」。人の持つ魅力は、職域を超えても理解しあえると考えます。創作の源泉や姿勢、人生哲学、ライフスタイルなどを垣間見ること、共感できる気づきを得ることを期待しています。

第十回目の建築人は、建築家・辻野純徳さん。浦辺鎮太郎氏に師事し、浦辺設計時代の四十五年前から今日に至るまで、日本を代表する倉敷中央病院に設計者として関わられています。病院建築の第一人者として質の高い作品を手がけるだけでなく、維持・管理にわたり新しい取組を展開されています。また、本誌の前身「ひろば」の創刊時の編集委員として、浦辺鎮太郎・西澤文隆編集長のもと活躍された、我々の大先輩です。幅広い活動での話題を通して、建築に向かう思いや姿勢などを伺いました。

- つじのよしのり
- 1934年 香川県高松市生まれ
- 1957年 大阪大学構築工学科卒業
- 藤木工務店・倉敷レイオンを経て
- 1964年 倉敷建築事務所(現浦辺設計)
- 1992年 ユー・アール設計設立
- 2014年 ユー・アール設計相談役

教科書のない中学時代
荒木 まずは辻野先生の生い立ちからお話しいただけますでしょうか？

辻野 私の生まれは、四国の高松です。終戦直前の七月の空襲で全焼。父の里である六甲山北、今の神戸市に疎開しました。昭和二年三月西宮に移りました。翌春、新制中学制度となり、そのときに甲陽、灘、甲南の三校を見て、校舎が一番きれいで明るかった甲陽学院中学校に進学することに決めました。

当時、定まった教科書がなく、国語は石坂洋次郎の連載小説の抄文やラスキンの詩「空は青かった」などを黒板に書いてあるものを書き写して、自由に広く学びました。歴史はなく社会科は、考古学や民族学、魏志倭人伝、東大寺の三月堂や不空羅索観音の写真が教材で、その影響もあって建築は面白いと感じました。それに凶工の須田勉太先生は良い点をつけてくれましたが、後で聞くと八五点と九五点しかなかったとのことですが、もともと家族は、親類に医者がいなかったので「医者になれ」と言われていました。

荒木 それがどうして建築に進まれたのですか？
辻野 中学一年のときに父親を亡くし、高校からはアルバイトをしながら生活し

ないといけない。大学に入っても、仕送りのいらぬ家から通える所しか選べない。その頃医学部は金がかかるし、家から通うといったら大阪大学しかない。「医学部を受けても合格できないかもしれない。工学部に行けば、一年半経った時点で編入試験があつて、どちらでも行けるよ」と、家族を納得させ大阪大学工学部へ入学しました。そのころ和辻哲郎の「古寺巡礼」やブルーノ・タウトの「日本美の再発見」に読み入り、桂離宮や修学院離宮など権威のある所の見学の為大阪建築史学研究会を作り、大学内に歴史同好会を作り、学校のバスも利用して、見学しました。

また、ゲリー・クーパ主演の『摩天楼』という、F.L.ライトの生涯を描いた映画を見て、建築を行うと決心しました。河野 歴史同好会まで作って、古い建築を見続けられていたのですね。

辻野 専門課程に入って大阪大学に講師で来られていた、村田治郎先生（注1）を尋ねましたが、「おまえは長男か」と言われるので「はい」と。「財産はあるか」と言われるので「ありません」と答えると、「入門を断る」と。昔は歴史では飯は食えなかったのです。
荒木 結果として、計画系の講座で足立孝先生（注2）の教室に進まれたのですね。

辻野 アルバイトをしないといけないので（笑）。

浦辺鎮太郎への師事

辻野 大学三年の前期に、浦辺鎮太郎先生（注3）が建築一般材料学の講義に来られました。講義概要（レジュメ）には、講義項目がユニテ・ダビタシオンの断面図に書き込まれ、その内容は、材料美学にまで及び興味あふれるものでした。浦辺先生は当時、倉敷レイオン（現・クラレ）の大阪本社の営繕部長を務めておられ、住まいが共に甲東園で、電車の中でしばしば浦辺先生に会いました。卒業のころ体をこわし、やっときまった就職は「摩天楼」が忘れられず断り、浪人しました。先輩から住宅金融公庫への誘いがありました。先輩から住宅金融公庫への誘いがありましたが、断りその帰途に浦辺先生を尋ね相談しました。浦辺先生は「本道を歩くべき、五年間黙って辛抱するか」とおっしゃるので、「五年間であれば黙って辛抱します」と伝えると、その場で名刺に紹介状を書いてくれて、藤木工務店に預けられたわけです。

藤木工務店では、浦辺先生の紹介であつたことから、倉敷レイオン関連の設計手伝いはすべて私の担当になりました。ビニロンに関係の深い京都の呉服店

（志ま亀）の京都航空ビルの手伝いなどを経て、石井記念愛染園の一連の施設（女子单身者住宅・保育所・病院）の建て替えを担当することになりました。大原總一郎理事長（注4）と度々打合せたのもこの頃です。

昭和三七年三月、浦辺先生から「倉敷でホテルの計画があるから、手伝いに来なさい」と言われ、浦辺邸に三日間通いました。浦辺夫人の手料理をご馳走付きで缶詰になりました。倉敷国際ホテルの四〇床ファーストプランでした。その時から営繕部に机をいただき一年後倉敷レイオンに籍を移し、倉敷建築研究所と兼務することになりました。大学卒業からちょうど五年目の春でした。

荒木 学生時代に工場建築に興味を持たれていたとのことでしたが、当時東畑謙三先生（注5）は大阪大学へ教えに来られていたと聞きましたか？

辻野 東畑先生が設計演習を教えに来られた最後の年でした。東畑先生は、階段の段数まできちんと描かなければ駄目を出される方でした。集合住宅の課題で、「おい、君、これ、棺桶が出ないよ」と鋭い指摘をされていました。東畑先生には実務というのはどういうものかということを教えられました。また、東畑先生と浦辺先生とは非常に



上段：浦辺鎮太郎
中段：愛染橋病院
下段：倉敷国際ホテル
撮影 中段・下段：多比良敏夫

(注1)村田治郎(1895-1985):建築史家。京都大学名誉教授。専門は西洋建築史。
(注2)足立孝(1919-1993):大阪大学名誉教授。専門は建築計画学。大阪大学吹田キャンパス計画などを設計。
(注3)浦辺鎮太郎(1909-1991):建築家。1962年、倉敷建築研究所(現・浦辺設計の前身)を設立(1966年に浦辺建築設計事務所と改名)。倉敷レイオン時代から大原総一郎の構想する倉敷のまちづくりを建築家として支える。
(注4)大原総一郎(總一郎)(1909-1968):実業家。大原財閥を築き上げた大原孫三郎の長男として、倉敷レイオン(現・クラレ)や、大原美術館の運営を引き継ぐ。
(注5)東畑謙三(1902-1998):建築家。1932年に東畑謙三建築事務所(現・東畑建築事務所)を設立。旧東方化学院京都研究所、大阪駅前市街地改造事業などを手掛ける。



上段：『ひろば』創刊号
中段：Good Design 15〈手〉
『ひろば』1966年1月号

〔注6〕岸田日出刀(1899-1966)：東京大学名誉教授。東大安田講堂の設計に関わり、前川國男、丹下健三らを育てる。
〔注7〕渡辺節(1884-1967)：建築家。1916年大阪で渡辺建築事務所を開設。古典主義をベースとした様式建築を自在に設計し、関西を中心に秀作を多く残した。大阪府建築士会初代会長。
〔注8〕東孝光(1933-)建築家。大阪大学名誉教授。1966年東孝光建築研究所(現・東環境・建築研究所)を設立。「塔の家」をはじめ、「都市型住宅」を多く手がける。

〔注9〕紙野桂人(1933-2002)：大阪大学名誉教授。専門は建築計画学。足立孝と共に大阪大学吹田キャンパス計画などを設計。
〔注10〕小川 正(1912-2000)：建築家。竹中工務店設計部。担当作品「新朝日ビルディング(1958年)」、「関電ビルディング(1960年)」など。
〔注11〕外村吉之介(1898-1993)：民芸運動家、染織家。1948年倉敷民藝館初代館長。主な著書に民芸遍歴・民芸遍歴・続(朝日新聞社)、沖繩の民芸(倉敷民芸館)など。

親しい間柄でした。例えば、浦辺先生が岡山一中の同窓生であった守屋正(京都ライトハウス理事長)・武内潔(鐘紡副会長)・北野正男(京都大学人文科学研究所)さんといった友人たちと大徳寺孤篷庵に生前に墓を用意することになりました。その際、東畑先生が仲間に入れてほしいという申し入れをされ、五人が同じ寺に墓をつくったのです。浦辺先生から、どうせ息子たちは参ってくれないだろうからと、「若い君が墓守をしろ、君もここに入れ」ということで、墓守を任されました。東畑先生は、墓は維持と手入れが楽にできないといけない、先生の墓の「寂」の字を前に字体の大切さを語られ、清林文庫を案内いただき「ここにはいい字体の本があるから、おまえが墓をつくるときは、見に来い」など、墓の作り方を教わりました。

民家の大家に、レイアウトを小林邦雄に、雑役に使いやすい立場にあった私が加わりました。そのあと、近畿建築士会協議会をまとめた機関紙の編集を、大阪府建築士会の初代会長である渡辺節先生(注7)から、比較的自由に動ける立場にあった私に手伝いを命じられ、私は編集委員の一員となりました。

浦辺先生の周りには他にもスタッフもいたでしょうから、辻野先生は特に浦辺先生とつながりが強かったんですね。

それは非常に大事な話で、もちろんうちの連中にもよく言っているのですけれど、とにかく設計者というのは、人様の金で自分の金では造れないものを造っている。自分たちよりも何十倍というお金を持っている人、その人と同じ気持ち、同じ目になれなかったら、設計はできないぞと。もう一つは、何でもいから日本一になれと。何でも一番になったら、その話でトップの人に話ができるぞと。

米山 月曜日の週礼において、毎週の全体の予定の調整や雑談とかをするのですが、「お前は、この所内で一番のものをそろそろ見つけたか」とちよくちよく聞かれます(笑)。

という話が湧き上がりました。昭和三六年(一九六一年)一月にル・コルビュジェの展覧会が大阪であり、「ル・コルビュジェ展をめぐって」というタイトルで浦辺先生を囲む座談会を開催しました。その年の四月には竹中工務店の小川正さん(注10)、一〇月には倉敷民藝館の館長の外村吉之介さん(注11)といった方々を招いたのが最初です(講演料は無料です)。

そうこうしているうちに東京の連中が、このグループに当たりを付ければ関西のことは分かるということと、宮内嘉久さん(注12)や村松貞次郎先生(注13)が声を掛けてくれ、座談会や取材もされました。それから「スペースモジュレーター」(注14)という雑誌をご存じでしょうか？

近畿建築士会協議会誌『ひろば』創刊のころ
辻野 浦辺先生は、昭和三十七年七月、岸田日出刀先生(注6)の指示により、日本道路公園の仕事を受けるため、株式会社倉敷建築研究所を作りました。その頃日本建築協会四五周年記念出版委員長となり、「ふるさとのすまい―日本民家集」を編集することになり、浅野清先生他古

河野 浦辺先生の周りには他にもスタッフもいたでしょうから、辻野先生は特に浦辺先生とつながりが強かったんですね。

「チェツクの会」の活動について
辻野 一九六一年頃は、残業代を会社は節約したい時代で、残業はできない。しかし、お金はない、そして夜は長い。それは他の事務所も同じで、梅田に「チェツク」という坂倉事務所に居た人が設計したジャス喫茶があって、大学を同期で卒業した東孝光さん(注8)や東さんと同期入学の紙野佳人さん(注9)たちが溜まったのが「チェツクの会」の始まりです。

荒木 日本板硝子が発行していた専門家向けの広報誌ですね。
辻野 はい。「スペースモジュレーター」は、大阪の都島工業高等学校の建築科の卒業生でもある二川幸夫さん(注15)が写真を、編集は、小林邦雄さんで、小林さんから「二川さんは大阪へ帰りがつている。スライド講演会をやろう」ということになりました。その際、開催資金が必要だということになり、寄付を募ることになりました。寄付を募るためには、

グループの名前を掲げなければなりません。そこで、昭和三八年(一九六三年)一月に「チェツクの会」と名乗りました。新幹線がなかった時代、小林邦雄さんは東京と大阪の情報を流すきっかけとなり、そのうち『新建築』の編集スタッフである馬場璋造さん(注16)も来るようになり、北 東京と大阪の間では編集者の情報が貴重な時代だったんですね。

河野 「グッドデザイン」は、普段から材料を集めていないと大変ですね。
辻野 これは浦辺先生の教育で、「あそこ、いい把手があったやろう」と古美術を楽しむ非常に鋭い眼ですね。東畑先生もね。
荒木 浦辺先生も普段から本物を見ておきなさいという話をされていたということですね。

「チェツクの会」の活動について
辻野 一九六一年頃は、残業代を会社は節約したい時代で、残業はできない。しかし、お金はない、そして夜は長い。それは他の事務所も同じで、梅田に「チェツク」という坂倉事務所に居た人が設計したジャス喫茶があって、大学を同期で卒業した東孝光さん(注8)や東さんと同期入学の紙野佳人さん(注9)たちが溜まったのが「チェツクの会」の始まりです。

荒木 今、UR設計ですね。
辻野 同じURと名乗っている以前の公園とよく間違えられます。URは条件づけられた中の社名です。その後色々ありましたが、施主の強い希望で直接倉敷中央病院の仕事が続けられるようになりました。独立当初は辻野君の仕事がないと心配してくれている方々がいて、研究調査のお手伝いをやらせてもらったことが仕事になったこともあります。

北 東京と大阪の間では編集者の情報が貴重な時代だったんですね。
辻野 ちょっと整理をしていたら、京都タワー反対運動について、「チェツクの会」で、一〇〇人の建築家を選んでのアナケートの葉書(15ページに掲載)が出てきました。
北 すごい建築家ばかりですね。

辻野 こういった高い建物が京都に建てば京都の景観の歯止めがなくなるということと、きちんと話し合いをすることが必要だという問題提起でした。
荒木 坂倉準三先生の意見が面白いですね。「単に意見を求めてそれでどうするかを…。意見は申し上げられない」と。答えはありませんが、きちんと自分たちで話し合いをしない、ということですね。

場(ひろば)になっていったと思いましたが、辻野 かなり自由にしゃべったことは事実です。京都タワーの反対のときもそうだし、それから奈良県庁舎の反対のときもそうだけれども、当時は割と役所の人間も自由に発言してくれましたね。
米山 肩書きを脱ぎ捨てて裸の一個人で自由に意見を発信できる場が、もう今はないのですね。

辻野 同じURと名乗っている以前の方針で、初めて、浦辺先生に報告したという週末に、浦辺先生が亡くなりました。病院をやりたいと浦辺設計にやって来た二人と共に多くの条件付で資本関係のない別会社となりました。しかし、浦辺夫人は非常に喜んでくれました。
荒木 今のUR設計ですね。

辻野 ちょっと整理をしていたら、京都タワー反対運動について、「チェツクの会」で、一〇〇人の建築家を選んでのアナケートの葉書(15ページに掲載)が出てきました。
北 すごい建築家ばかりですね。
辻野 それを『近代建築』(注17)に匿名もありましたが全部載せたのです。別に差し出した人全員の名前も載せたから、それはかなりしかられたけれどもね(笑)。このときに初めて建築家の社会責任を問うたわけです。これはかなり「チェツクの会」を有名にしました。

辻野 もともとは「チェツクの会」から始まって、「ひろば」を舞台にして、とにかくいろんなことをやらせてもらった。荒木 創刊当時の「ひろば」を見れば、大学に所属している先生方が参加し、官庁、行政の立場の人たちもそこに入ってきていて、本当に「ひろば」の理念を体現していたのだなと思えました。今は、情報はたくさんありますが、本質的に結合して次の動きにつながっていく、そういったものは、なかなかありませんね。

辻野 それはある意味では、浦辺先生の方針でもあったわけですね。それまでの雑誌は堅かったわけ。そこで、ここでは大衆的で何でも話し合える場にしようとして。西澤文隆さん(注18)もそういう人だったから、こういう雰囲気できてしまった。西澤さんなんかは、我々がむちゃくちゃ発言しても、ちゃんとそれを擁護してくれるからね。

河野 今後、UR設計は辻野さんの代で閉じるのではなく、ずっと引き継がれていくという意思を決められたそうですね。
辻野 東畑先生の事務所のような組織事務所とは違いますからね。こういった個人事務所は、こちらが仕事を続けようと思っても、向こうが頼まなかったらそれで終わりなのです。そういった意味では、はっきり言って、先はどうなるかも分からない。私は相談役に退いたのですが、残った者で仕事を続けさせてもらう努力が必要です。私も施主から許される限り、フォローするという条件付きで施主から

「チェツクの会」を有名にしました。
辻野 「異様な京都タワーが、東本願寺、東山、比叡山よりも高く、グロテスクな姿をさらしている」といったように厳しい評論が出版されていますよね。京都タワーの建設は、その当時、社会的に賛否が問われたのですか？

辻野 『ひろば』が情報発信の場であり、発散の場でもあったと思うのです。
荒木 今は、行政の人など、自分がしゃべれば、そこを代表してしゃべっているのだという考え方をされるので、こういった本質的な議論がしづらくなっていると感じたことがあります。ざっくりばらんに話ができるという、本当の意味で広

浦辺設計からの独立
辻野 その頃バブル経済期で仕事は多く、中でも病院チームは残業も多く、きついで、廃止するか別会社にすることが上から持ち込まれました。別会社にす

辻野 東畑先生は、私が仕事を続けようと思っても、向こうが頼まなかったらそれで終わりなのです。そういった意味では、はっきり言って、先はどうなるかも分からない。私は相談役に退いたのですが、残った者で仕事を続けさせてもらう努力が必要です。私も施主から許される限り、フォローするという条件付きで施主から



上段：Good Design 21〈あし-2〉
『ひろば』1966年10月号
中段：京都タワー

〔注12〕宮内嘉久(1926-2009)：建築評論家。雑誌『新建築』、『THE JAPAN ARCHITECT』、『国際建築』などを編集した。
〔注13〕村松貞次郎(1924-1997)：建築史家。東京大学生産技術研究所名誉教授。日本の建築生産について研究。主な著作に『日本近代建築技術史』など。
〔注14〕「スペースモジュレーター」：日本板硝子の建築情報誌。
〔注15〕二川幸夫(1932-2013)：写真家。1970年A.D.A. EDITA Tokyo Co., Ltd.を設立。『日本の民家』、『GA』シリーズ、『フランク・ロイド・ライト全集』等を発行。
〔注16〕馬場璋造(1935-)：新建築社にて『新建築』編集長を務める。建築情報システム研究所を設立、プロフェッショナル・アドバイザーとして、数々の設計競技に携わる。
〔注17〕『近代建築』1964年9・10月号
〔注18〕西澤文隆(1915-1986)：建築家。坂倉準三建築研究所大阪支所(現・大阪事務所)を開設。坂倉準三死後、坂倉建築研究所の代表として活躍。

辻野 東畑先生は、私が仕事を続けようと思っても、向こうが頼まなかったらそれで終わりなのです。そういった意味では、はっきり言って、先はどうなるかも分からない。私は相談役に退いたのですが、残った者で仕事を続けさせてもらう努力が必要です。私も施主から許される限り、フォローするという条件付きで施主から



上段：倉敷中央病院講堂
 中段：倉敷中央病院小児科待合
 （柚木沙弥郎による型染め）
 下段：倉敷中央病院屋上庭園にて
 撮影
 上・中・下段：田龍哲也
 11ページ撮影：三輪昌央（三輪
 晃久写真研究所）

（注19）病院建築 No.145 2004
 年10月 JIHa 創立50周年50人
 が語る医療福祉建築 私の「この
 作品」

も相談役を認めてもらいました。
 牧野 辻野先生としては生涯現役とい
 ことでですね。

倉敷中央病院のマスタープラン

北 私は倉敷中央病院を以前から一つの
 街のような病院だと思って見ていまし
 た。もともとどのような過程で考えられ
 たものなのでしょうか。

辻野 倉敷中央病院を担当するときに、
 当社ではこんな大きな病院、独自で無理
 と、経験のある、ある事務所との協同・
 指導を受けるよう指示されました。その
 紹介を得るため、愛染橋病院の設計で知
 り合った厚生省病院管理研究所の松本啓
 俊先生に相談しに行きました。そしたら、
 「あなたのところはホテルのノウハウを
 持っているから、それを生かして病院づ
 くりをしたらどうだ。必要な資料は全部
 出す」と。看護では東海大学病院の前田
 マスヨさんの指導を受けて、自力であえ
 ぎあえぎ作ったら高い評価をいただきま
 した。

「変化」はロンドンのノースウィックパー
 ク病院で始まりました。廊下主軸の線が
 あって、そこへ横につなぐ建物をつくる
 型でした。それを松本先生が紹介されま
 した。ちょうど我々が倉敷中央病院を設
 計するころだったわけですが。当初のマ
 スタープランは、浦辺設計に森本正一君と
 いう、京都大学出身の優秀な人がいて、
 それに大阪大学で先生を困らせたという
 西井美彦君が私のもとに加わり、昔コン
 ピュータに興味があり、幹線廊下をつく
 り「二進法でいこうよ」と提案されまし
 た。二進法というのは、十字路をつくら
 ないで、左か右とか、意思決定できる
 動線を作ってみないかと。「おもしろい」
 「やろう」と始まったのが倉敷中央病院
 のマスタープランなのです。今もその幹
 線廊下が生きています。結果は、ファサ
 ドのない、中はどこが接ぎ目か分からな
 い建築空間が生まれました。

辻野 イギリスで始まった「成長と変化」
 というのがあって、病院機能の「成長と

成長と変化に対応すること
 辻野 例えば、七、八年前に計画したこ
 とは、現在では適切でないことがありま
 す。具体的には、画像診断のMRIの能
 力は、技術の進歩で、より鮮明な画像が
 半分の時間で得られ、価格も手に届くよ
 うになりました。そのため、予定台数の
 半分で用が足りません。一方消化器内視鏡
 はX線透視から技術の発達でファイバー
 部分が細くなり、負担も軽く確実に診断
 でき、移行が進み、結果的には、倍の件
 数になっており、その場に振向けること
 としました。病院建築ではそれほど変化
 があるので、そこがかえって面白い。
 北 確かに、建築で考えるスパンと、医
 療の進歩のスパンが全然違う。それに対
 応していくのは難しいところがあります。
 辻野 私が四五年前に倉敷中央病院に関
 わり始めた頃、病院の洋式便器の採用
 は、猛反対に遭いました。住宅公団も洋
 式が少し入り始めたころだったと記憶し
 ています。不特定多数が利用する便所
 は誰も座らないという主張で、三つあつ
 たブースの内、一つだけは洋式便器を認
 めてくれました。蓋を開けてみると、洋
 式便器の方に行列ができたということが
 ありました。

もう一つ面白かったのは、病棟毎でな
 く、バリアフリーで快適な公衆浴場を

造ったわけですね。一時は大評判でね。と
 ころが、一〇年くらい経ってアンケート
 をとれば、ものすごく評判が悪いのです
 よ。シャワーでもいいので、一人で入れ
 る浴室がほしいと。

倉敷市のデータを調べると、公衆浴場
 の数が半分になっていました。各家庭に
 浴室いわゆる内風呂ができたのです。そ
 うすると、共同の浴場に入る習慣がなくな
 ったのです。建築というのは、生活習
 慣や生活水準の変化で変わっていくとい
 うことを、そのとき教わりました。

設計というのは過去のデータを基に、
 こうなるだろうという仮説立てで進めま
 す。完成後どのように使われているかと
 いふフォローアップを病院の設計ではと
 ても大事にしています。例えば、壁の汚
 れや傷がひどい場合はその原因を追及し
 て、次の設計に生かしていくようにして
 います。

荒木 仮説を立てて、検証を積み重ねて
 いく。次に設計にフィードバックしてい
 くという形ですね。

辻野 フォローアップして、分析し、新
 しい条件を加えて改善する病院と経営
 やマネジメントも相談して修正する。そ
 のことが認められて、二〇一〇年に第四
 回日本ファシリティ・マネジメント大賞
 を受賞しました。ファシリティ・マネジ



フラワーガーデン

倉敷中央病院

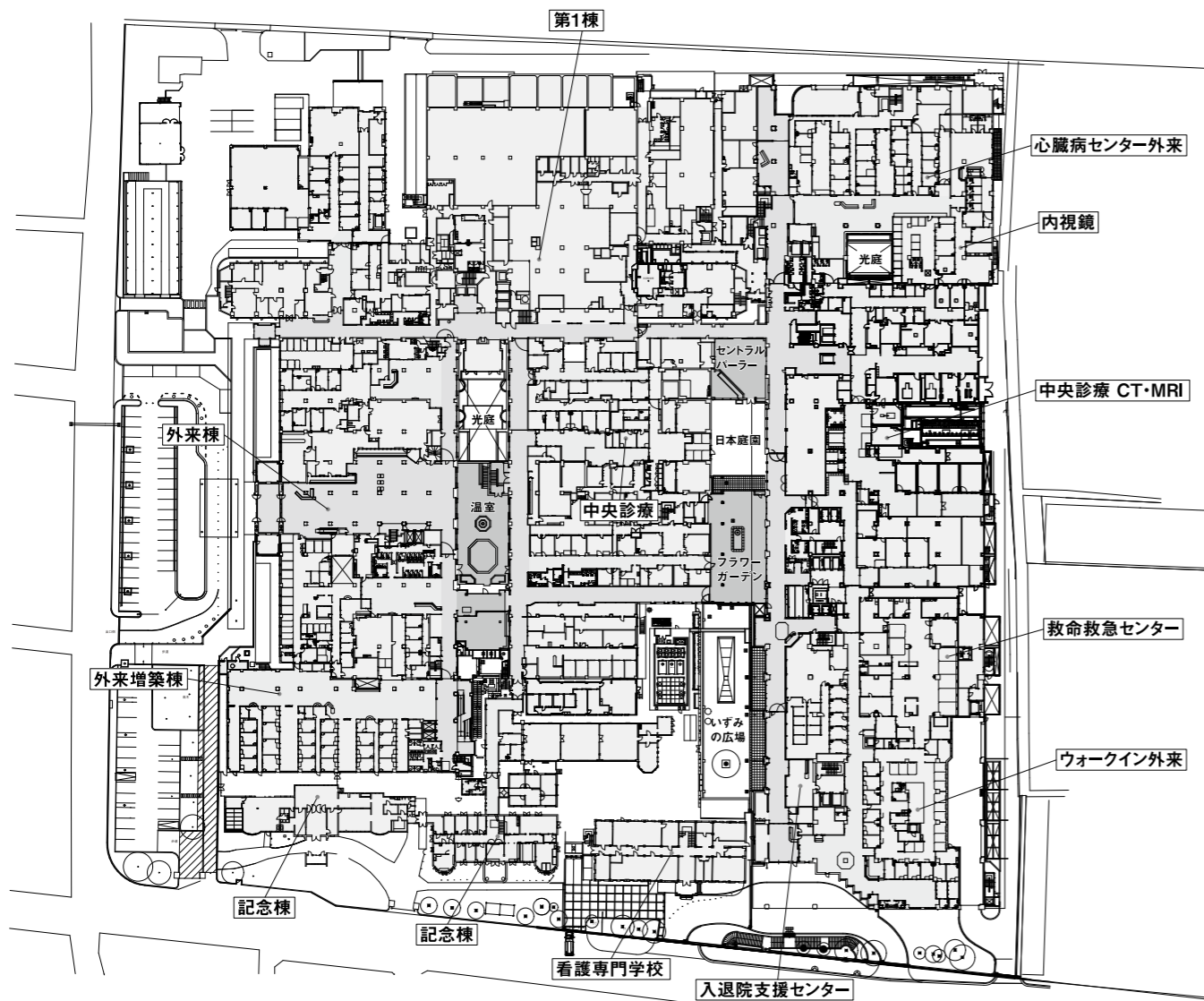


幹線廊下（うぐいす通り）

倉敷中央病院の変遷



左上：1970年代（着手前） 左下：1980年代（第3期完了時） 右：2013年



倉敷中央病院 1階平面図 (2013年)



上段：民芸運動の啓蒙を目的に発行された「工藝」

協力
 脇屋 泰治
 1960年 岡山県生まれ
 1983年 九州芸術工科大学芸術学部環境設計学科卒業
 1983年 浦辺設計
 2001年～倉優
 2006年～ユー・アール設計嘱託(兼務)

米山 剛史
 1979年 奈良県生まれ
 2002年 京都大学工学部建築学科卒業
 2004年 京都大学工学部研究科環境地球工学専攻修了後、中央設計
 2007年～ユー・アール設計

聞き手
 河野 学
 1979年 大阪府生まれ
 2008年 大阪大学大学院(博士後期課程)修了
 2008年 大阪大学大学院特任研究員
 2009年 大阪府立工業高等専門学校講師
 2013年 京都市住宅供給公社

北 聖志
 1976年 大阪府生まれ
 2001年 神戸大学大学院(博士課程前期)修了
 2001年 二井清治建築研究所
 2007年 THINK一級建築士事務所設立
 近畿大学非常勤講師

奥河 歩美
 1976年 兵庫県生まれ
 2001年 神戸大学大学院(博士課程前期)修了
 2001年 共同設計株式会社
 2007年 O+O architects
 2010年 空間計画株式会社

牧野 高尚
 1969年 和歌山県生まれ
 1988年 和歌山県立和歌山工業高等学校建築科卒業
 1993年 伊東建築計画室
 2000年 Atelier PICT設立

本特集責任編集人
 荒木 公樹
 1971年 大阪府生まれ
 1995年 神戸大学工学部建築学科卒業
 1995年 建築環境研究所
 2003年 空間計画設立

メントの第一人者である名古屋大学名誉教授の柳澤忠先生から高い評価をいただきました。

北 病院の設計を進めるとき、誰と話すのが一番いいと思われませんか？さまざま局面があると思いますが、病院の運営を手がけるトップなのか、最後は現場の人なのか。

辻野 われわれが、四五年前は、初めてでまず調査と観察で知り、同様の病院のデータと突き合わせて違いの理由を追求し、現場とことん話し合い、積み重ねた結果を建築にしました。打合せの回数が八〇〇を超えたと言ったら病院仲間から、驚きの声もありました。それでも、建物の完成後もいろいろな問題点がありました。話した夫婦さんからは自分達で作ったと、うまく使いこなしてくれました。当時は病院の職員数が七〇〇〇〇人で全然違うわけです。今回は三〇〇〇人と話し合い、骨格を作り、各ワーキンググループを持ち込んで話し合い、問題点はトップに戻す形を繰り返して、そういう役目を我々がしています。トップとの打ち合わせだけでも五〇〇回を越えました。

北 なるほど、縦割りを横につなぐような役目をやっているということですね。

米山 中には、他事例を加味などして将来計画に提案しても、聞き入れてもらえないこともあります。しかし、将来変化の可能性を予見し、それに対する建築的な対策を検討するのは僕らしかいません。常に成長と変化にどう対応するかを頭の片隅に置きながら設計するように心がけています。

辻野 その昔、頑として引かなかったこともあり、当時の院長が、「辻野さんが駄目と言うから、駄目だ」と言ったらしく、ある先生が怒鳴り込んできてね(笑)。でも、それを守り通すことを許していただけ感謝しています。

ヒアリングの際に心がけていることが、一面からの聞き方だけでは取り違える。何かおかしいと思えば、反対の面からもう一度聞き直して、本音がどこにあるのか聞き出さないといけない。それはもともと聖路加病院の日野原重明先生に教わったことで、日野原先生が人間ドックを担当していた時の見学で、イエスと答える問診とノーと答える問診では結果が違うことを教えてくれました。今回の設計で、新築した部分ができたら、その継ぎ目が判らないシームレス改修を施すから要望されました。新しい所に一部でも移した時しか空いた部分の全面改修の機会はないと、そして病院の成長とともに

に空いた場所を不便でも確保した努力が非合理的配置になっていたりすることも設計者の眼で気づきました。それらの改善も共に進めています。

民芸との関わり
 荒木 辻野先生は、大阪民芸協会の会長を務められるなど民芸と深く関わっておられます。どのようなきっかけで民芸に興味を持たれたのでしょうか？

辻野 民芸とは大正末、美術工芸品でなく、名もない職人が美を意識することなく無心に作った器などに新しい美を発見した柳宗悦の主張によるものです。

学生の頃、民家に興味があり、浦辺先生にそのことを話すと、ちょうど「河内の民家」見学会があるからついて来なさいということになりました。見学会への参加を機に大阪民芸協会に入ったのです。

大原總一郎さんの影響もあり、浦辺先生は民芸にどっぷり浸り、生活も民芸でした。倉敷民芸協会の立ち上げも、倉敷民芸館も中心的役割を果たしていました。また、浦辺先生が亡くなられた時、浦辺夫人から浦辺先生が所蔵していた民芸関係の図書を託されました。浦辺夫人は震災で亡くなりました。民芸の心は現場にも取り入れ、芹沢銈介先生のステンドグラスや瀧田頂一先生の絵付タイルな

ど建築に取り入れています。

荒木 「有り難いことには、質を追って利益を考えなかったこの進み方は、かえって読者を集める原因にさえなった」と編集後記にありますね。これは実物じゃないと意味がないですね。

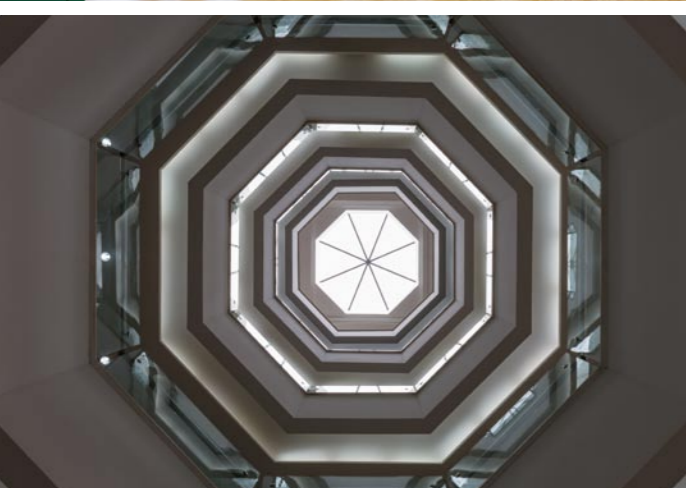
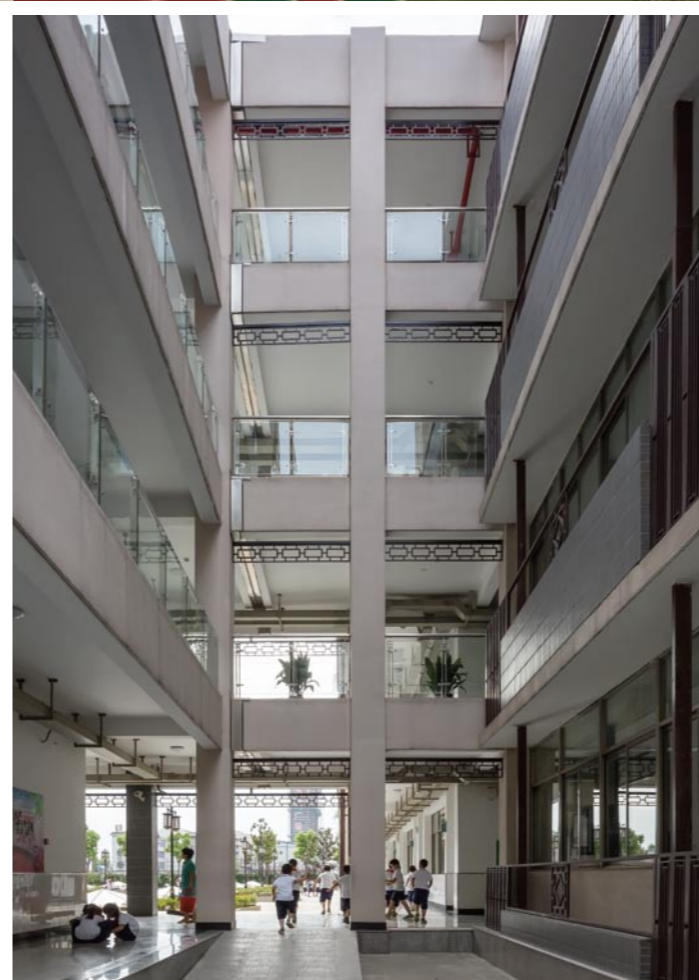
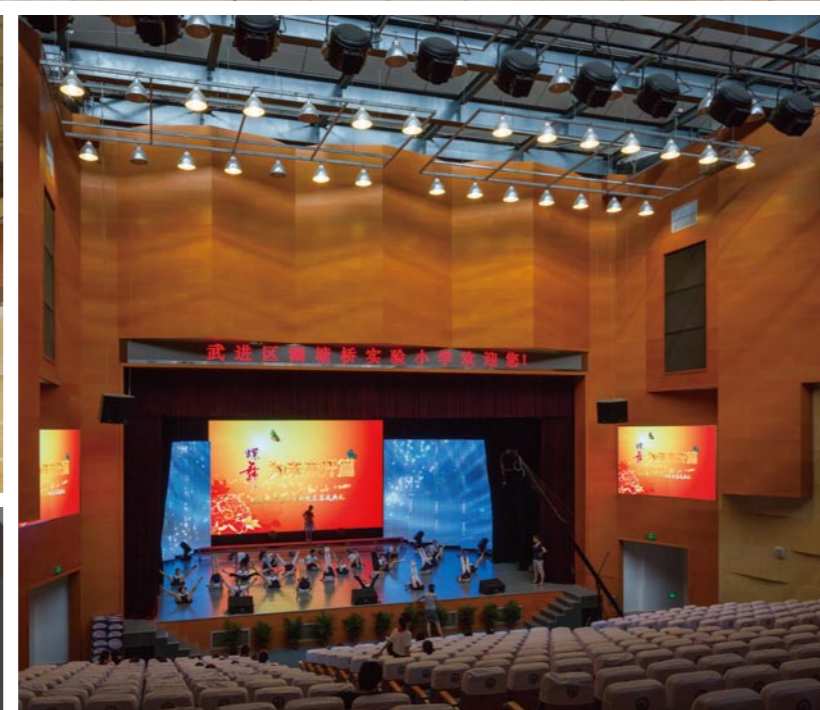
辻野 浦辺先生に導かれて民芸の器で食事をし、酒もいただいています。使ってみないと本物の良さがわかりません。これは、「三笑楽」という酒ですが、合掌造りの建物で有名な富山の秘境・五箇山で見つけました。以前から、浦辺先生が「三笑主義」を唱えており、建築というのは、施主も、施工者も、設計者も喜ばないといけない。一人が泣いたら、いい建築ではないのだと。浦辺先生が亡くなられた後に見つけました。さあ、飲んでください。今では、うちの地鎮祭とか竣工式の奉獻酒として必ずこれを使っています。

牧野 今までの言葉や教えがすべてがなくなっているという感じがすごいですね。たまたま「三笑楽」ということだったのでしょうけれども、つながったのでしようね。本日は長時間にわたりありがとうございました。

二〇一四年五月二八日UR設計・六月五日倉敷中央病院にて

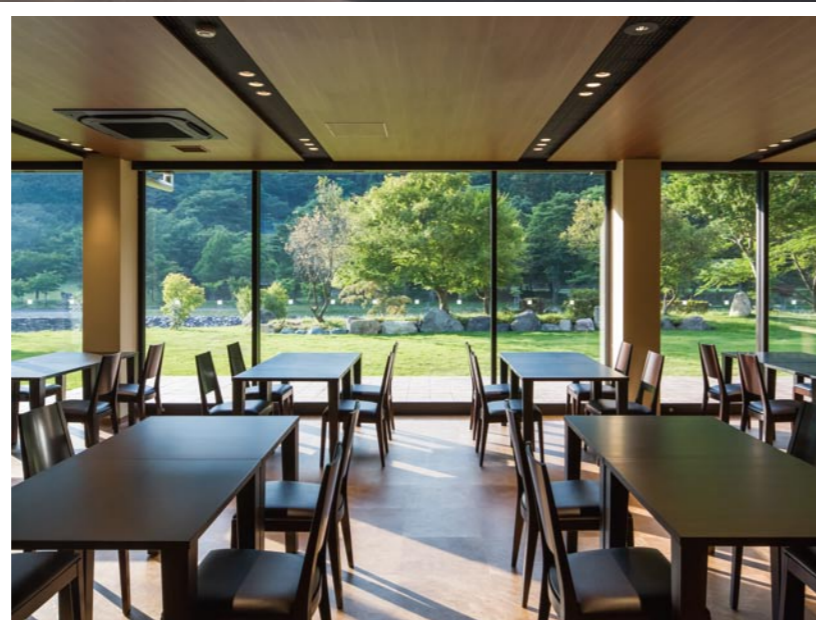
辻野純徳＋ユーク・アール設計 年譜

	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010				
辻野純徳	1953年 大阪大学工学部構築工学科入学 1955年 浦辺鎮太郎「建築一般材料学」を受講、玉島レイヨン（現・クラレ）玉島工場建設現場で夏季実習、大阪民藝協会河内民家見学会に参加（のち入会） 1957年 大阪大学工学部構築工学科卒業、浦辺鎮太郎の紹介により（株）藤木工務店へ入社	1962年 倉敷建築研究所へ出向 1963年 倉敷レイヨン（株）入社（株）倉敷建築研究所（現（株）浦辺設計）兼務 1964年 倉敷レイヨン（株）退社 1964～73年 『ひろば』編集常任委員	1970～76年 大阪大学工学部講師建築設計製図第3部（ホテル・病院） 1976～81年（株）浦辺設計技師長、神奈川県立看護大学校看護管理コース講師（病院建築）	1981～98年（株）浦辺設計取締役 1984～89年 大阪大学工学部講師建築一般材料学 1985～89年 日本病院設備協会病院空調研究委員会委員	1992年 有限会社ユーク・アール設計設立代表取締役 1993年 市立泉佐野病院建設計画案設計競技審査委員 1997年 川崎医療短期大学医用デザイン科講師	2003年 日本医療福祉設備協会 病院空調設備の設計 管理指針改訂検討委員会委員	2014年 有限会社ユーク・アール設計代表取締役退任・相談役就任				
建築作品	藤木工務店での担当作品 1957年 鳥居邦枝邸（宝塚市） 1958年 小西儀助商店研究所（大阪市）、住友信託銀行支店改修（大阪市）	倉敷建築研究所ならびに浦辺設計での担当作品 1961年 石井記念愛染園女子単身者住宅（大阪市／大阪建築コンクール知事賞／新建築1961年11月号、建築年鑑1963年版） 1962年 石井記念愛染園愛染橋保育所（大阪市／新建築1963年2月号、近代建築1963年2月号）、スエヒロあみだ池倉庫（大阪市） 1963年 浜寺幼稚園第1期（高石市／新建築1963年9月号） 1965年 石井記念愛染園愛染橋病院（大阪市／新建築1965年3月号、近代建築1965年7月号、SD1966年7月号）、日本ユースホテル協会倉敷ユースホテル（倉敷市、新建築1965年12月号） 1966年 名神高速道路吹田レストハウス（吹田市／新建築1966年7月号）、クラレスポーツセンター野田プール（大阪市）、府内信用金庫本店（大分市）、スエヒロ高松店（高松市） 1967年 日本ユースホテル協会奈良ユースホテル（奈良市／新建築1967年9月号） 1968年 倉敷レイヨン中央研究所（倉敷市／新建築1968年9月号、建築文化1968年9月号）、浜寺幼稚園第2期（高石市／新建築1969年6月号） 1969年 倉紡記念館（倉敷市）、西鉄グランドホテル（福岡市／新建築1969年8月号、近代建築1969年8月号、建築画報1969年8月号）、大日本印刷健康保健組合芦ノ湖山荘（神奈川県足柄下郡）、倉敷文化センター（倉敷市／現倉敷公民館／建築年鑑1970年版）	1970年 千里阪急ホテル1期（豊中市／大阪建築コンクール知事賞／新建築1970年6月号） 1971年 日本合成化学工業中央研究所（茨木市／建築年鑑1971年版）、倉敷珈琲館（倉敷市／商店建築3月号）、NHK神戸放送会館（神戸市／建築年鑑1971年版）、紀伊風土記の丘松下記念資料館（和歌山市／新建築1972年3月号）、スエヒロ本店（大阪市） 1972年 玉野市総合文化センター（第14回BCS賞）、泉北ニュータウン横塚台近隣センター、鐘紡迎賓館（芦屋市） 1973年 泉北ニュータウン横塚台団地賃貸住宅（堺市）、玉野市民病院（新建築1973年12月号、建築文化1973年12月号、病院1974年11月号、病院設備1975年3月号） 1974年 倉敷アイビススクエア（倉敷市／昭和49年度日本建築学会賞、昭和49年度日本インテリアデザイナー協会賞他／新建築1974年7月号、建築文化1974年7月号、近代建築1974年8月号、建築画報1974年7月号他）、和歌山県埋蔵文化財収蔵庫（和歌山市） 1975年 トヨサキ産業新幹線博多駅他2店、鐘紡病院女子寄宿舎、鐘紡がん研究所（神戸市） 1976年 鐘紡病院（設計完了で中断）、浜寺幼稚園増築（堺市） 1977年 増田邸（北九州市）、田村耳鼻咽喉科医院（倉敷市） 1978年 鈴蘭台北町保育所（神戸市）、横山ビル（高松市）、浜幸製菓工場（高知市） 1979年 牟礼病院（香川県小豆島町）、倉敷河畔重要伝統的建造物群保存修理昭和54年度	1980年 倉敷河畔重要伝統的建造物群保存修理昭和55年度（倉敷市） 1981年 多摩丘陵病院（町田市）、武蔵野赤十字病院（武蔵野市／新建築1982年5月号、病院1982年8月号、現代日本の病院） 1982年 因島市医師会病院（広島県因島市）、ポバース記念病院（大阪市）、武蔵野赤十字病院改修（武蔵野市） 1983年 八木病院（福岡市）、玉野レクセセンターアリーナ棟（玉野市）、喜多メイヨー・クリニック（東大阪市） 1984年 玉野レクセセンター柔剣道場棟（玉野市）、特別養護老人ホーム海南荘（佐世保市）、神戸市農業公園ワインパークセンターゾーン（神戸市／平成2年度神戸市建築文化賞） 1985年 ドリーム特販ショールーム改装（広島市）、神戸市農業公園陶芸館（神戸市） 1986年 神戸市農業公園学童農園附属施設、ゲート他（神戸市）、神戸市六甲山牧場博物館展示館（神戸市） 1987年 黒住教神道山老人集合住宅（岡山市）、御津文化センター（岡山市御津町／ふるさと文化賞） 1988年 とよす三葉亭井口堂マンション（大阪府池田市）、多摩丘陵病院増築（町田市）	1991年 北九州市総合基幹病院（北九州市） 1992年 心臓病センター榊原病院増改築（岡山市）、北九州市総合基幹病院がんセンター棟改造他、立体駐車場（北九州市） 1993年 明文館深江北町ビル（神戸市）、セントラルユニNプロジェクト（北九州市）、富田浜病院第3期（四日市市）、ミドリ会さくら薬局（碧南市）、豊洲製菓工場統合計画（池田市、基本設計+監理）、小倉さごかつ福内装（北九州市） 1994年 プロルート丸光新配送センター（天理市） 1995年 ガラシア病院改修工事第1～3期 1996年 小林記念病院増築・改修（碧南市）、老人保健施設「みあ・カーさ」（堺市） 1997年 鳥田病院増築及び老人保健施設「悠々亭」（羽曳野市）、 1998年 富田浜病院増改築及び老人保健施設（四日市市、基本設計） 1999年 武蔵野赤十字病院増改築（武蔵野市）、浅香山病院新病棟（堺市）	2000年 特別養護老人ホーム「カーさ・びあなか」（堺市）、松永医院増築（下関市）、富田浜病院第6期療養型病棟増築（四日市市） 2001年 石井記念愛染園特別養護老人ホーム・グループホーム（大阪市）、浅香山病院看護専門学校・看護寮（堺市）、ガラシア病院手術室等改修（箕面市）、 2002年 北九州市立医療センター増築・改修、網野町立健康福祉センター・図書館（京都府網野町）、特別養護老人ホーム「アイユウの苑」増築（下関市）、介護老人保健施設伯鳳ブラザ増築（赤穂市） 2003年 特別養護老人ホーム・グループホーム「アル・ソール」（堺市）、丹後ふるさと病院増改築、とよす東急百貨店本店他4店（渋谷区ほか） 2004年 岡山旭東病院増改築改修 2005年 大念佛寺社会事業団ダイヤモンドプラン21（保育所・乳児室・母子寮）（大阪市）、飯塚記念病院（福岡県飯塚市／設計協力）、老人保健施設アイユウ増築（下関市） 2006年 浅香山病院増築（堺市、近代建築2006年11月号）、富田浜病院第7期総合リハビリテーションセンター増築（四日市市）、松美会グループホーム（下関市） 2007年 藤井医院（尾道市）、岡山旭東病院画像診断部門増築及び食堂棟増築改修（広島市）、アイユウの苑ゆめタウン（下関市）、特別養護老人ホーム「カーさ・びあなか」増築（堺市）、井野病院増改築（姫路市） 2009年 倉敷学園（倉敷市）、吉川病院（堺市）	2011年 岡山リハビリテーション病院（岡山市）、特別養護老人ホーム「カーさ・びあなか三国ヶ丘」（堺市） 2012年 吉川病院介護老人保健施設すこやかいきセンター三国ヶ丘（堺市）、特別養護老人ホームふるさと（京丹後市） 2014年 融通念仏宗総本山大念佛寺新延喜殿（大阪市）、アイユウ長府サービス付き高齢者向け住宅（下関市）、岡山旭東病院第6次増改築（岡山市）				
倉敷中央病院	1953年 創立30周年	1963年 創立40周年 1969年 創立50周年増改築計画スタート	1973年 創立50周年、増改築第1期着工 1975年 増改築第1期	1980年 増改築第2期 1981年 増改築第3期（SDA賞、新建築1982年5月号、病院1982年5月号、病院建築54号、現代日本の病院） 1983年 創立60周年	1990年 総合保健管理センター（病院建築94号） 1992年 第2棟（病院建築107号） 1993年 創立70周年 1999年 手術室増築、倉敷中央天寿会ケアハウス・デイサービスセンター他（倉敷市）	2000年 救急センター・集中治療室他増改築 2002年 外来棟増築 2003年 創立80周年、外来棟改修 2005年 心臓病センター病棟等増築、第2棟リニューアル 2007年 倉敷リバーサイド病院外来等増改築	2010年 第3棟（新建築2012年10月号）、倉敷リバーサイド病院健康管理センター改修 2012年 第3棟増築（新建築2012年10月号、病院2013年8月号） 2013年 創立90周年、第1棟他耐震改修及びリニューアル、倉敷リバーサイド病院病棟改修				
		病床数 563（1963～66年） 709（1967年） 770（1968年） 791（1969年） 延床面積 27,454㎡（1970年）	病床数 903（1969～74年） 971（1975～77年） 1,088（1978～79年） 延床面積 46,700㎡（1975年） 57,840㎡（1979年）	病床数 1,103（1980～83年） 1,115（1984年） 1,270（1985～92年） 延床面積 68,500㎡（1981年） 74,000㎡（1992年）	病床数 1,180（1993～94年） 1,176（1995～99年） 1,151（1999～2000年） 延床面積 87,320㎡（2002年）	病床数 1,116（2000～07年） 1,135（2008～09年） 延床面積 99,760㎡（2005年）	病床数 1,151（2010～11年） 1,161（2012年～） 延床面積 138,957㎡（2012年～）				
	 石井記念愛染園愛染橋保育所	 石井記念愛染園愛染橋病院	 浜寺幼稚園	 千原阪急ホテル	 倉敷アイビススクエア	 武蔵野赤十字病院	 老人保健施設「みあ・カーさ」	 特別養護老人ホーム「アル・ソール」	 浅香山病院	 倉敷中央病院	 倉敷中央病院



常州市武進区は、多くの科挙を輩出した学閥を礎に、二千五百年を超える歴史を育んできた都市である。湖塘橋実験小学校は“百年の伝統を誇る小学校だからこそ、改革なくしては次の百年は築けない”という高い理念のもと改築された。未来を担う児童に、知育、体育、情操教育、更には德育における最高水準の環境を提供するという目的を、中日友好を希求しつつ共有でき、様々な困難を協力して乗り越え、竣工に至ったことに対し、改めて関係者の皆様に敬意と感謝を捧げたい。教育局との熱い議論のあと、友から言われた“君はヴォーリスになりたかったんだね”という言葉、一生心に刻んでおきたい。(徳岡浩二/徳岡設計)

所在地：中国 江蘇省 常州市武進区
用途：小学校
施工：2013.3
構造規模：RC造
敷地面積：50,087.2㎡
建築面積：9,806.5㎡
延床面積：38,974.3㎡
写真：松村芳治



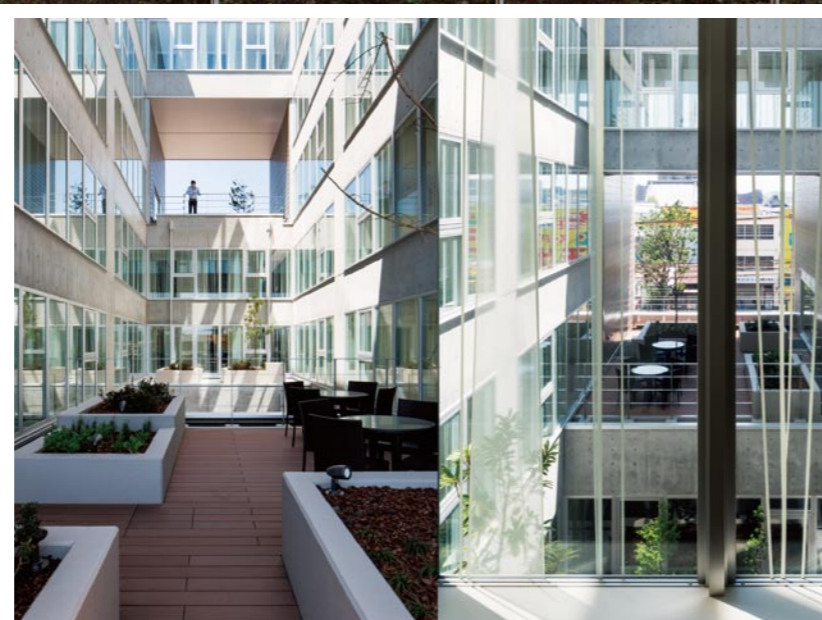
野洲川上流の静かで落ち着いた自然に包まれた「甲賀の奥座敷」として、旧かもしか荘を全面改築する計画である。国民宿舎として長年親しまれてきた施設を、時間的な余裕を持つ世代の利用や、都市と農村の相互交流を視野に入れ、地域の憩いの場として再生した。恵まれた立地を最大限に活かし、すべての客室とラウンジから河川の景観を楽しめる構成と、ゆったりとした間取りにより、隣接する神社や集落などの歴史散策をはじめ、清流や里山情緒の味わえる宿泊施設としている。自然体験を学ぶ子供から入浴を楽しむお年寄りまで、安心して快適なひとときを過ごせる空間とした。
(藤城義丈／徳岡設計)

所在地：滋賀県甲賀市
用途：宿泊施設
施工：2013.3
構造規模：S造 2階建
敷地面積：5,066.62㎡
建築面積：923.48㎡
延床面積：1,495.39㎡
写真：松村芳治



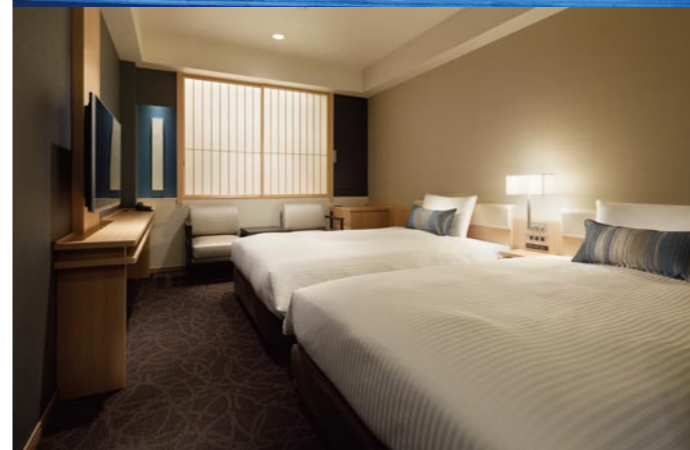
竣工後37年を経過した市役所本庁舎を、耐震性の向上や設備更新のため改修するにあたり、市民利用の継続性に配慮し、先行して本館に増築棟を建設することとなった。新館1階に市民窓口業務を集中させ、ワンストップサービスを基本に利便性を高め、3階には、災害時の対策拠点となる会議室も配し、各階を渡り廊下で連結させて機能性の向上をはかっている。永らく親しまれてきた旧庁舎のイメージを継承しつつ、市民サービスの主体を担うために刷新された新館にふさわしい正面性にも考慮した。自然豊かなまちのシンボルとして環境共生技術の採用や維持管理にも留意した未来志向の施設としている。
(藤城義丈／徳岡設計)

所在地：滋賀県東近江市
用途：庁舎
施工：2014.3
構造規模：S造 3階建
敷地面積：15,381.13㎡
建築面積：2,608.27㎡
延床面積：4,789.43㎡
写真：松村芳治



「ガス&エネルギー」を企業コンセプトに人と環境の共生を目指す岩谷産業の新たな社員寮は、新入社員が共同生活を送り、岩谷マンとして歩みだす場所として計画された。中央の7層吹抜に設けたステップガーデンを包み込むようにラウンジ、食堂、浴室、研修室を立体的に配し、4人、3人、個室の計52室には約100人の社員が住まい、共用部と相まって真の交流を誘発する空間の創造を目指した。外壁に設けたヴォイドは、中央の吹抜を介して上部へ螺旋状に開放することで中庭の快適性を高め、室内外に自然の光と風を導く。加えて太陽光パネル、ガスコジェネシステムを備えることで、社員の意識を高めると共に岩谷産業の環境への取組を可視化した建築でありたいと願った。(近井務/東井嘉信)

所在地：堺市堺区
用途：寄宿舎
竣工：2014.4
構造規模：RC造 7階
敷地面積：977㎡
建築面積：636㎡
延床面積：3,705㎡
写真：浅田美浩



京都・新町通に建築主が古くから所有してきた商家をホテルに建替える計画。蔵を残してホテル棟を作り、その低層部に往時の商家を再現した。外装は墨色のRC打放仕上を基調とし、商家部分は京町家が持つ軸組や形態の特徴を木と漆喰、本瓦で表現した。この新旧表現の対比によって京のまちなみへの順応と刺激を試みている。インテリアもホテルらしいモダンな意匠としながら、中庭を中心に小スケールの空間が展開する「邸(やしき)」のような構成と、日本の建築言語を再解釈した繊細なディテールをちりばめることで、心地よくさりげなく京都らしい香りを感じさせるものをめざした。(木戸貴博・小林浩明/竹中工務店)

建築主：大丸松坂屋百貨店
所在地：京都市中京区
用途：ホテル
竣工：2014.2
構造規模：RC造 地下1階 地上5階
敷地面積：1,705.29㎡
建築面積：1,200.11㎡
延床面積：5,528.31㎡
写真：古川泰造、ナカサ&パートナーズ



布施駅から徒歩約5分の商業地域に建つ障害福祉サービス事業所である。1階に飲食と園芸ショップを一体としたカフェを計画し、気軽に立ち寄れる開放的でおしゃれな施設を目指した。2階は様々な作業に合わせて仕切れるフレキシブルな空間とし、個別のブースや小さなラックスルームを設けるなど、刺激の苦手な人への配慮をしている。3階のコミュニティスペースは、災害時には地域の避難場所となり、4階には短期入所を設け、障害者の方たちの地域生活を支える。敷地内に植えたハナミズキやライラックの木が隣接する公園の緑と相まって、カフェとともに地域の憩いの場となることを願っている。

建築主：社会福祉法人 青山会
所在地：大阪府東大阪市
用途：障害福祉サービス事業所
竣工：2014.3
構造規模：鉄骨造 4階
敷地面積：420.37㎡
建築面積：245.50㎡
延床面積：868.73㎡
写真：母倉知樹

第6回 建築人賞発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会



審査委員長 古谷誠章

1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員として
マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ 八木佐千子とスタジオナスカ(現NASCA)共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授

審査総評

建築人賞審査委員長 古谷誠章

今年初めてお引き受けした建築人賞の審査、前任の石堂威さんが丹念に現地を訪ねて審査をされたと聞いて、できるだけ多くの作品をお訪ねしてと思うのですが、なかなか自由にならない自分自身のスケジュールにも、もしかしいいと思います。掲載された資料には誌面の制約も多く、それぞれの魅力が必ずしも十分に表現されてはいないだろうことを察するに、せっかくな資料をこ用意いただいたのに伺えなかった皆さんにも、大変申し訳ありません。

こんな状況で、なかなか石堂さんのようなわけにはいきませんが、どうぞご容赦ください。そうした中でようやく、入賞の候補とした各部門二点、計四点の作品を実際に訪問することができました。

一年分の掲載誌を見て、その作品の充実ぶり、多彩さに驚き、同時にまたこの限られた誌面の情報だけでは到底、各作品の全容には触れられないと思いました。従って、あくまでも最初の誌面だけを入口とした、私なりの評価だと理解してください。その中からキラリと光るものが見つけれられたものを、一次入選として、より詳細な資料を追加していただきました。現地審査に

はさらにその資料から、最終的に建築人賞になるにふさわしいと感じられたものを選びました。

実際に拝見したそれぞれの建築は、いずれも甲乙つけがたく、建築人賞と奨励賞とに選定するのにはかなり逡巡しました。両方とも建築人賞にできないのかと事務局に確認しましたが、どうにもならないようであえて結論を出した次第です。

来年も引き続き審査をするようにとのことですので、最後に次回に向けて審査方法の改革を、提案したいと思います。こうした賞の目的は、受賞するかしないか以上に、賞に応募して下さる方々の、今後の活躍に役立てるかどうかにあると考えています。その意味で、応募される方が直接作品を解説することのできる機会があれば、審査員とはもとより、応募者同士でも大いに対話することができ、互いに様々な示唆を得ることにつながるだろうと思います。一次審査にこの形式を取り、その中から現地審査の対象作品を選考するスタイルにしませんか？

●目的

公益社団法人大阪府建築士会会報誌「建築人賞」(建築作品紹介欄)に掲載された作品の中から、機能的、社会的、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰し、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とする。

●審査経過

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、二〇一四年四月には第五九八号を数えました。本会員である建築士にとって重要な情報提供を行うとともに、作品発表の機会を設け、建築技術の普及や建築士の相互研鑽に寄与することを目指しています。「建築人賞」は、「建築人」のGALLERYに掲載された作品の中から優れたものを顕彰し、建築文化の発展に資するとともに、「建築人」への作品掲載の意欲をさらに高めていくことを意図して創設された賞です。対象となる作品は、GALLERYに掲載されたものであれば、立地場所や用途は問いません。

審査は、公平性を重視するため、関西以外活躍する建築関係者、学識経験者等をお願いしています。今回(第六回)からは早稲田大学教授古谷誠章氏を審査委員長としてお迎えしました。二〇一三年に掲載された作品三〇点の中から一次審査において九点を選出し、図面・写真等の追加資料を用いた二次審査及び現地確認によって、

四点の入賞作品を選出しました。
入賞作品は、いずれも雑誌掲載時からその先進性、デザイン性などが注目されていたものでした。これらを表彰し公表することによって、社会に対して建築の魅力や価値を発信し、建築文化の向上に寄与できるものと考えています。

建築人編集人代表 米井寛



建築人賞記念盾「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作



【選評】
都心の市街地に建つ自社ビルだが、一見するとグレイドの高い複数のレストランなどが入っているかに見える。木質の柔らかなデザイン性と共に、気品のある外観が、繁華な市街地の中でひととき人目を引く。商業ビルと違って看板も無いのが清々しい。街並みにも貢献している。勤務する人々にとって、オフィスは単なる労働の空間ではなく、長い一日を過ごす生活のための空間だ。働く人々が心地よく、快適に暮らすことのできる「大きな家」が実現した。設計者の情熱と、この建築を依頼したクライアントの慧眼にも最大限の敬意を表したい。



建築人2013年10月号掲載

建築主／日本圧着端子製造株式会社
設計者／Atelier KISHISHITA + Man*go design
施工者／鹿島建設 関西支店

建築位置／大阪市中央区道修町3丁目4-7
竣工年月／2013年6月
用途／事務所
構造・規模／S造・一部SRC造、RC造
地下2階 地上8階
敷地面積／1,226.16㎡
建築面積／939.01㎡
延床面積／8,245.23㎡
写真／絹巻 豊



【選評】
週一度の研修会に多くの人が参加する。機能はたとえて言えば、学校建築に近いという。大小の研修室があり、最上階には大きなホールもある。人々は三々五々参集するが、終了時には一度に多くの人が退館する。これも学校の都心校舎とも共通する悩みだ。エントランスホールが、その機能を担う。エレベーターよりずっと効率がよい。何とわかり、象徴的であると同時に、非常時にも有効である。この建築の端正な立面にここに集う人々の影が映り、夜には街に對する灯りともなるだろう。



建築人2013年10月号掲載

建築主／宗教法人 GLA
設計者／岸 和郎+ K.ASSOCIATES/Architectes
施工者／藤木工務店 大阪本店
建築位置／大阪府吹田市金田町28-17
竣工年月／2013年5月
用途／宗教施設
構造・規模／鉄骨造 地上6階
敷地面積／1,635.06㎡
延床面積／2,837.64㎡
写真／小川重雄写真事務所 小川重雄



【選評】
伝統的建築物群保存地域の奈良県今井町に建つ民家の改修である。街並み全体が保存された美しい立地に、古くからの佇まいを再生し、なおかつ内部には現代的な洗練された生活空間を仕込む。道路も狭隘で工事にも大きな制約がある中、丹念に検証した上で実践された緻密な実施設計がこれを成功させている。内部空間での民家の古材と、新調された木格子組の耐震壁の新材との鮮やかな対比が圧巻である。デザインの要素も新旧が渾然一体となり、古いものだけでも、新しいものだけでも生み出し得ない、独特の協奏が生まれている。



建築人2013年2月号掲載

設計者／NEO GEO 横関正人+横関万貴子
施工者／岩鶴工務店
建築位置／奈良県橿原市
竣工年月／2012年11月
用途／専用住宅
構造・規模／木造 地上2階
敷地面積／169.60㎡
建築面積／255.58㎡
延床面積／169.60㎡
写真／絹巻 豊



【選評】
これも建築人賞に匹敵する住宅の佳品である。夙川の一般住宅地を抜けて、郊外に残る自然とのまきに接線上に建っている。敷地は急峻な傾斜地で、アプローチ部分は接道もきわめて限られており、ふつうの感覚で言えば、家が建つのが不思議なくらい敷地だ。しかし、この敷地とコストの厳しい制約を、設計者と依頼主の見事な協働がそれを克服した。その結果、この類い稀なる敷地の利点を活かした、絶好の眺望と、自然の営みに身近に触れる生活環境を手に入れた。住み手にはこれから四季折々の変化を楽しみ、この家を育てていく楽しみがある。



建築人2013年3月号掲載

設計者／マニエラ建築設計事務所
施工者／笠谷工務店
建築位置／兵庫県西宮市
竣工年月／2012年12月
用途／専用住宅
構造・規模／木造 地上2階
敷地面積／547.38㎡
建築面積／84.38㎡
延床面積／129.19㎡
写真／下村康典



天心聖教伊勢礼拝堂
設計者／竹中工務店
施工者／竹中工務店



奈良 帝塚山の家
設計者／井上久実設計室
施工者／西友建設



當麻寺の家
設計者／マニエラ建築設計事務所
施工者／吉川組



GARDEN PLACE TSURUMI
設計者／大西憲司設計工房
施工者／西友建設



学校法人大阪歯科大学創立100周年記念館
設計者／日建設計
施工者／西松建設

今年の五月下旬、北九州市八幡東区にある村野藤吾の設計した八幡市民会館（一九五八年）をはじめ訪れる機会があった。いつかは訪ねてみたいと思っていた場所の一つだった。というのも、北九州市に統合される前の八幡市は、村野が幼少期から青年期までを過ごした縁の場所である。そのこともあってなのだろう。八幡には、市民会館の他に、村野が設計した建物として、隣接地に八幡図書館（一九五五年）があり、さらに近くには、後に、八幡信用金庫本店（現・福岡びびき信用金庫本店／一九七一年）も建てられた。こうして、他の都市には見られない複数の村野建築が立ち並ぶ独特の都市景観が創り出されたのである。

実は、他にも立ち寄りた理由があった。昨年の暮、突然、新聞の電話取材を受けた。八幡市が市民会館と図書館の敷地に市立病院を移転し、医療エリアとして再整備すると発表し、村野建築の取り壊しを取り沙汰されているので、そのことについてコメントがほしい、という内容だった。後日、「二施設はこの地域の全盛期に建設された公共遺産であり、市は専門家の意見を聞きながら価値を見定めて、存廃については慎重に判断すべきだ。壊すことは簡単だが、先人が残した遺産を観光資源などに有効活用する可能性も模索してほしい。」という文言で紹介された（『毎日新聞』西部版二〇一四年一月二〇日）。その際、同じ紙面には、北九州市のまちづくり団体「八幡みらい協議会」の理事で、老舗の千草ホテルの社長でもある小嶋一碩氏が現地でインタビューを受ける写真も大きく掲載された。こうした経緯もあり、市民会館を現地に訪ね、新聞社の紹介を受けて、小嶋氏ら関係者に会って話を聞いておきたいと思ったのである。

記憶の建築 松隈 洋

八幡市民会館 1958年
村野藤吾を育んだ八幡の建築遺産



水平線が強調された格調のある北側正面外観



オリジナルの家具が置かれた2階ホワイエ

山陽新幹線を小倉で降り、鹿児島本線に乗り換えて一〇数分、八幡駅に着く。途中、車窓からは、隆盛を誇った戸畑の八幡製鉄所の巨大な高炉跡が見える。八幡駅で小嶋さんの出迎えを受け、さっそく市民会館に向かう。駅から真っ直ぐに伸びる広い道路を四〇〇mほど進むと、ロータリーの正面に、茶褐色のタイルの外壁に覆われた市民会館が見えてくる。また、手前の左側には、大きく育った樹木の下に、幾何学的な模様をタイルを張られた小さな図書館がある。

の八幡駅は、戦後の戦災復興事業の一環として、現在地へと移設され、その際、駅を中心とする防火帯道路として、幅員五〇mの道路が敷設されたのである。そして、残念ながら、今は取り壊されて現存しないが、駅前には四棟建てられた「平和ビル」（一九五四年）と呼ばれた鉄筋コンクリート造の四階建ての店舗付集合住宅の内一棟を、村野は手がけていた。こうした復興事業の延長線上に、八幡市が建設したのが、図書館と市民会館だった。なぜ村野だったのだろうか

「私は工業学校出で機械を勉強して、兵隊にゆくまでは、それでしばらく八幡製鉄所につとめていたのです。この八幡の影響というのは人にもいわれ自分でもそう思うのですが、かなり強かったようです。生まれは唐津です。しかし物心ついでから八幡に移り、そこでずっと暮らししました。製鉄所にいたこと自体もいまではプラスになっていますが、もう一つは感覚的な面への影響ですね。私の作品のシルバー・グレイというか、ちょっとブライトでない色調。これはやはり八幡の煙の多い空、それから鉄、あの感じですね。これをもっと洗練すれば「渋い」ということになる。森五に象徴される一つの感覚。これは一生私に影響したのです。（村野藤吾「私の建築観」『建築年鑑』一九六五年）

この回想にもあるように、村野は、一八九一年に佐賀県の唐津で生まれたが、一〇歳の頃に八幡に移住し、小倉工業学校（現・小倉工業高校）機械科に進学、卒業後は、八幡製鉄所へ入り、兵役を経て早稲田大学の機械科から建築科へ進路を変更、苦勞の末、日本を代表する建築家となっていく。その村野が、今も東京に残るデビュー作の森五商店東京支店（一九三一年）を生んだ自らの原風景であり、洗練された「渋い」デザインの出発点だと位置づけるのが、八幡である。だからなのだろう。市民会館には、村野の八幡への思いが結実した清新な空間と落ち着いたたたずまいが今も変わらずに息づいている。何とか、この建築遺産が活かされてほしいと思う。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工芸学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

それにしても、幅五〇mの広い道路とロータリーのある日本離れた駅からの都市景観は、どのようにして生まれたのだろうか。小嶋さんから当日いただいた資料（北九州産業技術保存継承センター「北九州地域における戦前の建築と戦後復興の建築活動に関する研究」二〇一〇年）には、次のような八幡市の歴史が記されていた。

一九四五年八月八日、八幡は米軍機の空襲を受け、市街のほとんどすべてを焼失する。罹災者も五万人を超えたという。現在

一 インフラの維持管理について
今年の四月一四日に、社会資本整備審議会道路分科会長から国土交通大臣に「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言」が手渡された。

最後の警告

今すぐ本格的なメンテナンスに舵を切れ
静かに危機は進行している
すでに警鐘は鳴らされている
行動を起こす最後の機会は今

最近よく報道されているように、道路橋のストックは日本全国で約七〇万橋に上る。驚くべきことにこの数字は国土の大きさが全く異なる米国や中国と同レベルである。またその内訳は、高速道と国道を合わせても一〇%で都道府県道が一五%、残りの七五%、五〇万橋以上が市町村道である。ということは、つまり、日本の道路橋の大半は市町村の管理ということになる。(この問題については後述する。)

これらの橋は前回の東京五輪や大阪万博前後の一九六〇年代から七〇年代の高度成長期に集中的に架けられたものが多く、それらの「橋の団塊の世代」が今後、一斉に高齢化していくことは疑いようのない事実である。巨大地震が来るか来ないかは確率的であり、地域によってその確

率も様々であるが、橋の高齢化は(人も同じ)、全国津々浦々で間違いなく確率一〇〇%で襲来する大災害なのである。

具体的に橋齢五〇年を一つの目安とすれば、平成二五年時点で五〇歳以上の橋は二割弱であるが、一〇年後の平成三五年には四割強と二倍以上に増加し、その後も増え続ける。

古くなった橋は架けかえればよい、というのも一つの考え方であるが、戦後からこれまで数十年かけて蓄積してきた道路橋ストックを、短期間に全て更新するほどの生産力も経済力も今の日本にはない。ましてや、架け替えのための通行止めや交通規制による交通渋滞がそこら中で起こっているような国で、まともな経済活動や安全・安心で快適な生活が成り立つとは到底考えられない。

ある程度の割合で更新せざるを得ない橋はあり得るが、大半の橋は、架け替えせずに予防保全等で長寿命化をはかるしか選択肢はないのである。実際に、昭和初期に架設された長大橋で試算した結果、部分的な部材交換や予防保全等で長寿命化を図れば、架け替えの数百分の一のコストで済むという事例もある。

しかしながら、全国の七五%の橋に対して管理責任をもつ市町村では、「金(予算)がない」、「人(技術者)がない」という問題があり、さらにその間に中小企業の活性化をはかることが非常に重要である。

そこで、本研究会を立ち上げ、その問題点と解決策を模索する。重要な点は、単なる「ものづくり」ではなく、現場での施工や使い方、さらにその成果までを含めた「ものづくり」が必要、ということである。維持管理で必要とされる「もの」は、典型的な多品種少量生産品であり、補修・補強材料なども量は少なくそれぞれの現場によって異なるものが要求される。そのような「ものづくり」を実現するためには、実物大の模型を用いた実証実験や現場での施工試験による品質保証が欠かせない。

以上をかんがみ、本研究会では、東大阪を中心とした中小企業を持つそれぞれの卓越した技術を活用することにより、橋梁などのインフラの維持管理の高度化と、それら中小企業ならびに地域の活性化をはかることを目的とする。

橋の新設は大手ゼネコンなどが同じようなものをどんどん造る大量生産型であるが、維持管理は橋ごとに

に点検方法も、笹子トンネル事故で問題となった遠望目視によるものがほとんどという背筋が寒くなるような現状にある。

以前から疲労設計が導入され、二年ごとの定期検査が義務付けられている鉄道橋と比べて、疲労設計の導入が先送りされ、五年ごとの定期点検ですらまともに行われていない日本の道路橋の現状は、悲惨といっても過言ではない。

二〇〇二年に漸く道路橋の主要部材に対して疲労設計が導入され、主要部材に対しては一〇〇年以上の耐久性が保証されたが、それ以前の道路橋に対しては、当然ながら疲労設計が行われていないことから、いわゆる既存不適格橋梁があちこちに存在しており、明日、何処かで疲労で橋が落ちても何の不思議もない。

二〇〇六年に米国でのトラス橋の崩壊事故、日本でのトラス部材の破断事故や主桁が破断寸前で見つかった事故等が頻発したことを受けて、翌二〇〇七年には道路橋の予防保全に向けた有識者会議から、当時、「見ない」、「見過ごし」、「先送り」と言われた維持管理の現状を改善すべく答申が出されたが、事態は依然として改善されておらず、今年四月の「最後の警告」に至っている。

今回の提言の柱は、維持管理の基本である点検に関して、「五年に一度、近接目視による全数点検を実施」と道路管理者の義務を明確化したことである。当たり前であるが、メンテナンスサイクルの始めの点検で損傷を見逃してしまえば、その後でいくら高級な維持管理システムが用意されていても何の役にも立たない。先ず「見逃がさないこと」が何よりも大事である。

また、橋の新設は同じ規格で同じようなものを日本中に造る「中央集権的」な産業であるが、維持管理は、日本全国に散らばる個々の橋が対象なので、中央の大企業よりも、それぞれの地域の実情に詳しい中小企業の方が向いている。「地方分権的」な産業となる。しかも橋が使われ続ける限り仕事がなくなることはないの

で、雇用が確保され、地方の活性化にも繋がるということが期待される。

三 問題点、今後の課題

提言や警告は、これまでも繰り返して発せられている。とにかく何か一つでも具体的に動き始めること、実現することが重要である。

今我々が日本で直面しているような、ある時期に集中的に建設された橋梁等のインフラの老朽化問題は、お隣の韓国や中国、その他の発展途上国でも、これから直面せざるを得ない問題である。この分野で、日本の中小企業がイニシアチブを取り、国際的なビジネスに繋げていくことも可能である。

本研究会の活動が、日本の中小企業並びに地方の活性化と、国際的な貢献に繋がれば幸いである。

維持管理というテーマは、建築/土木の分野を問わず、今後のものづくりにおける重要な課題です。このほど東大阪橋梁維持管理研究会を立ち上げ、中小企業によるインフラの維持管理に取り組まれている関西大学の坂野昌弘さんに、橋梁の管理の現況と今後のねらいについてご紹介いただきました。

「インフラの維持管理」について：東大阪橋梁維持管理研究会の取り組み

坂野 昌弘

山形県生まれ。1981年東京工大修士課程修了。工学博士。現在は、関西大学環境都市工学部都市システム工学科教授。専門は鋼構造学、橋梁工学、疲労(橋と自分自身)。最近は、国土交通省の橋梁ドクターや、鉄道や高速道路、自治体等のアドバイザーとして、橋梁の診断や補修・補強、長寿命化対策等に駆け回っている。

度、近接目視による全数点検を実施」と道路管理者の義務を明確化したことである。当たり前であるが、メンテナンスサイクルの始めの点検で損傷を見逃してしまえば、その後でいくら高級な維持管理システムが用意されていても何の役にも立たない。先ず「見逃がさないこと」が何よりも大事である。

なお、「近接目視」はただ単に近くで眺めればよい、というものではない。Hands-on Inspectionと言われるように、見るだけではなく、叩いたり、触ったり、撫でたり、時には、剥がしたり、削ったりという行為を含むものである。逆に考えれば、この点検の段階で、塵を取ったり、タッチアップをしたり、絆創膏を貼ったり、という簡易な措置を施すことで、大袈裟な補修工事を別途発注しなくとも、次回の点検まで劣化を抑えることも可能となる。このような細やかな「繕い予防保全」が小規模な橋梁が多い市町村では、実は極めて有効な手法なのである。

二 東大阪橋梁維持管理研究会

設立の経緯、意図、活動内容
本研究会の設立の趣旨および目的は以下のとおりである。

今まで橋梁などのインフラ構造物のメンテナンスは、高速道路会社や鉄道会社などの土木系の関連企業群



デザインの可能性を広げてくれる内・外装システム、それがデラクリートセメントボードシステム 出典：吉野石膏株式会社カタログより

外壁を真っ白なキャンパスに

文 測 側 晋

建築の外装壁面に、思い描いたイメージそのままを形にして表現してみたい、そんな誰もが持つ願いに、大きな可能性を与えてくれるのが、今回、紹介する吉野石膏が取り扱う外壁材「デラクリート」である。

デザインの可能性を広げる内外装システムデラクリートとは、デラクリートセメントボードシステムのことです。1980年代初めに世界最大の石膏ボードメーカーUSG社によって開発されたデラクリートセメントボードを構造基材とした、内外装材システムの総称である。地上三階建て相当までの木造・鉄骨造に大壁仕上げで対応し、可とう性に富むことから、曲面施工も可能であると共に、目地の無い自由な大壁面をつくること出来る。仕上げにおいても、各種湿式系塗材はもちろんのこと、タイル、擬石など貼り材による仕上げにも対応する他、同壁面上での、塗り材とタイルや擬石などを組み合わせる場合の地下としても使用可能で、高い仕上げ自由度を誇る。これまでの工法上での仕上げ材による制約に大きな自由を与えてくれ、デザインの可能性を大きく広げてくれる、それがこの「デラクリートシステム」だ。

建築の外装壁面に、思い描いたイメージそのままを形にして表現してみたい、そんな誰もが持つ願いに、大きな可能性を与えてくれるのが、今回、紹介する吉野石膏が取り扱う外壁材「デラクリート」である。

「弱くて強い」秘められた新たな可能性。今回、取材を通じて、このデラクリートの事を知って思い返されたのは、建築家の内藤廣氏が語られる「多矛盾系」との言葉だ。合理的で、構造的に無駄の無い鉄骨造や鉄筋コンクリート造での現代建築は、全てを数値化し、計算することが出来る。しかし、それら矛盾の無いシステムに、外的要因による矛盾が発生すると、そこからもたらされる部分破壊が即、全体での破壊に直結する。しかし、是まで矛盾だらけで、数値化できず、弱いとされてきた木造は、多くの矛盾を孕むが故に、部分破壊しても、それが即全体の破壊には繋がりにくい。それら弱くて強い、矛盾に満ちた木造の複雑さを内藤氏は「多矛盾系」と言っている。そしてその矛盾の中にこそ現代の最先端技術をもつても解明できない新たな可能性が秘められているとも語っている。もちろんこれら内藤氏の言葉をそのまま、デラクリートにあてはめる事は出来ないかもしれない。しかし、是まで見てきた様に、様々な特性を考えてゆくと、デラクリートの外壁材としての本質はそこにあるのでは無いかとも感じられる。それらデラクリートが持つ可能性は、外壁材に求められる各種性能を高いレベルで実現していることから容易に理解できる。そして、そのデータだけでは捉えきれない高い品質が表現の可能性にも繋がってゆき、建築の外壁意匠設計において大きな可能性を開いてくれることが

スを作る。その後は各種の仕上げを施すことで、イメージ通りの壁面デザインを実現することが出来る。簡単な例で言えば、自由自在にイメージを実現する内装設計においては、軽量鉄骨下地に石膏ボードを貼り、下地を作り、そこから様々なデザインを実現する訳だが、それらを建築外装に使える様にと、広げていったイメージだろうか。勿論石膏ボードをそのまま建築外装下地として使えれば良いが、耐久性、耐震性など様々に超えなければならぬ壁がある。それら、意匠性の自由度はそのままに、外壁材として用いるための諸問題を解決したのが、この外壁システムである。

トセメントボードは、それ自体の強度はそれほど程高くない。高くないどころか、初めから微細なクラック（マイクロクラック）が無数に入っていて、むしろある意味では「最初から壊れるように」出来ている。勿論、壊れると言っても、致命的な破綻には到らず、マイクロクラックが少しずつ潰れながら全体として外部応力を吸収し、一箇所に応力が集中することを防いでいるイメージだ。それらの事を考えれば現在の建築構造的観点から見ても、不思議な外壁材であるとも言えるだろう。

より良好な経過を示し、驚く程、表面化するクラックが少くない。システムとして導入され二十年以上の歴史がある訳だが、初期の施工物件を見ても、クラック一つ入っていないものも多く、改めてその性能に驚かされる。又、耐久・耐震性にも優れていることが実証されている。先の東北での大震災の際には、パネル材を外壁に用いた建物が、軒並みパネル材を脱落させ、鉄骨だけの姿をさらしていたのに対して、隣接するデラクリートを外壁に用いた建物ではそれら脱落は一切見られなかったことが報告されている。勿論、先の震災レベルになれば、デラクリートと言えどもダメージを間逃れることは出来ない。コーナー部などを中心に亀裂が入っていたことも報告され、そこまでの損傷を被ると、張替えを含めて補修は必要になってくる。しかし、先にも述べた様に、隣接する近隣の外装にパネル材を用いた鉄骨造の建物では、軒並み外装パネルの完全脱落を見ていたことを考えれば、二次災害の観点からみても、デラクリートに大きなアドバンテージがあることが理解出来る。

東北震災でも証明された信頼性。では、従来の外装仕上げパネル材と比べて、単体としては強度が劣るデラクリートは外壁材としての性能が落ちるのかという点、その様な事は無い。むしろ様々な点で優れた性能を示している。例えば、耐クラックにも非常に強く、過去の施工物件で経年変化を見ても、他の構造・仕上げと比べて



目地の無い曲面大壁にも対応 出典：吉野石膏株式会社カタログより

それらの事は、1990年に国土交通省が新素材、新材料の研究を促進するために設置した「総合技術開発プロジェクト」において、物性・防火性・耐水性・耐久性・施工性などのあらゆる角度から研究を行った結果、デラクリートは各種性能に優れた日本の気候風土や住環境に最適な新素材であると結論付けられたと共に、2000年に施工された「品確法」の住宅性能表示項目の耐火・省エネルギー対策・劣化対策における最高等級の取得にも対応し、必須項目である通気構法にもしっかりと対応していることなどからも証明されていると言えるだろう。この様に、一枚一枚は弱い、デ

ラクリートセメントボードを外壁材として繋ぎ合わせてゆくこのシステムは、曲面にも対応すると共に、弱点の無い一枚壁の大壁面を作ることを可能にし、そこから自由で高いデザイン性を実現している。

タイガーボード

「タイガーボード」は、回収副生せっこうや、段ボール・古新聞を原料として作られた地球環境にやさしい「リサイクルの優等生」です。

安全で快適な住空間を創る

YOSHINO

吉野石膏株式会社

www.yoshino-gypsum.com



感じ取れる。是まで、商業施設などにおける鉄骨造での外壁材において選択肢が少なく、画一的な外観となりがちであったことを考えると、デラクリートが持っている自由な施工性と懐の深い外壁材としての特性は、豊かなデザインの可能性を与えてくれることを予感させる。デラクリートを用いた表情豊かな建築群が、街に賑わいを創り出す風景を想像しながら、何か真っ白なキャンパスに向かう様なワクワク感を感じた今回の取材であった。

暑中見舞 2014

建築設計事務所

暑中お見舞申し上げます

宇澤 善一郎

ア ト リ エ ・ U
和泉市池田下町 1 6 9 9

人、社会、地球環境との共生

岩永 裕人

株式会社 アール・アイ・エー
大阪市北区堂山町 1-5
(三共梅田ビル)

金峰 鐘大

株式会社 I A O 竹田設計
大阪市西区西本町 1-4-1

暑中見舞 2014

大阪府建築士会役員

見える社会貢献活動へ

宮崎 八郎

宮崎建築設計事務所
大阪市中央区西心斎橋 1-1-11
(心斎橋西ビル 8F)

柳川 陽文

株式会社 小河建築設計事務所
大阪市中央区博労町 1-7-16
(CSTビル)

岡本 森廣

全日本コンサルタント株式会社
大阪市浪速区港町 1-4-38

希望は星に、足は大地に

瀬尾 忠治

株式会社 阿波設計事務所
大阪市浪速区元町 2-2-12

小林 務

株式会社 石本建築事務所大阪支所
大阪市中央区南本町 2-6-12
(サンマリオンNBFタワー)

松村 慶三

浦 辺 設 計
大阪市中央区北浜 2-1-26
(北浜松岡ビル 4F)

安心・安全な住まい環境の創造

澤本 侃一郎

株式会社 K&S 総合企画
大阪市西区京町堀 2-2-1
(スマタビル 10F)

西 邦 弘

株式会社 キンキ総合設計
大阪市中央区谷町 4-5-9
(大阪屋谷町アークビル 4F)

暑中お見舞申し上げます

上田 茂久

株式会社 上田茂久・建築設計工房
大阪市北区中津 1-12-3

暑中お見舞い申し上げます

湯浅 安彦

株式会社 小西設計
大阪市西区立売堀 1-12-16

宮川 明夫

株式会社 総合積算
大阪市北区東天満 1-11-19

岡本 慶一

株式会社 日 建 設 計
大阪市中央区高麗橋 4-6-2

安心・安全な住まい環境の創造

田中 義久

株式会社 田中市建築事務所
(TANATOSHI DESIGN NET)
TANATOSHI Osaka 大阪市中央区本町橋 5-14
(OZビル本町橋 902)
TANATOSHI Tokyo 東京都大田区上池台 1-7-16-218

濱田 徹

鹿島建設株式会社
大阪市中央区城見 2-2-22

稲葉 繁夫

株式会社 繁建築構造設計事務所
大阪市中央区農人橋 2-1-30

佐野 吉彦

株式会社 安井建築設計事務所
大阪市中央区島町 2-4-7

森田 茂夫

株式会社 東京建物アミニティサポート
大阪市中央区本町 3-4-8


山城 健児

コーナン建設株式会社
大阪市北区大淀南 1-9-10

横田 友行

株式会社 能勢建築構造研究所
大阪市中央区瓦町 3-3-7
(瓦町KTビル)

建設会社

 竹中工務店

取締役社長 宮下 正裕

大阪本店 大阪市中央区本町 4-1-13
TEL06 (6252) 1201
東京本店 東京都江東区新砂 1-1-1
TEL03 (6810) 5000

 大成建設
TAISEI

For a Lively World

常務執行役員関西支店長 山田 文啓
<http://www.aisei.co.jp/>

芳村 隆史

株式会社 碧-AO-建築事務所
大阪市阿倍野区丸山通 1-3-44

米井 寛

株式会社 東畑建築事務所
大阪市中央区高麗橋 2-6-10

一般社団法人 **日本建築材料協会**

会長 立野 純三

本部 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階
電話06(6443)0345(代)
FAX06(6443)0348
支部 関東・中部・中国・四国・九州
http://www.kenzai.or.jp/

一般社団法人

大阪空気調和衛生工業協会

会長 太田 隆

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-6-14 朝日生命辰野ビル2階
TEL 06(6271)0175 FAX 06(6271)0177

ナイスジョイント

ステンレス製=給水・給湯・冷温水配管用管継手

ISO9001
ISO14001
認証取得

オーエヌ工業株式会社

代表取締役社長 中村 政弘

■本社・工場 〒708-0015 岡山県津山市神戸466
TEL(0868)28-0171(代) FAX(0868)28-4254

低炭素化の防水仕様で環境へ貢献

■ピロウエルトE新熱工法 ■シグマートE
日新工業株式会社

大阪支店 支店長 北村 克己
大阪支店：〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-12-22
TEL 06-6533-3191(代表)
本社：〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4
TEL 03-3882-2424(代表)

学校法人 福田学園

OCT 大阪工業技術専門学校
OHSU 大阪保健医療大学
OCR 大阪リハビリテーション専門学校

理事長 福田 益和

〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27
TEL 06-6352-0093 FAX 06-6352-5995
URL http://www.fukuda.ac.jp

一企画から印刷までトータルにクリエイトします

株式会社 日報印刷

代表取締役 井上 務

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-16-7 TEL.(06)6445-6888

Hyper-MEGA, Hyper-ストレート, HBM工法
NAKS, RODEX工法

日本コンクリート工業株式会社

本社 〒108-0023 東京都港区芝浦4丁目6番14号(NC芝浦ビル)
基礎事業部 ☎(03)3452-1081 FAX(03)3452-1125
大阪支店 〒541-0059 大阪市中央区博労町4-5-9(本町太平ビル)
☎(06)4963-6911 FAX(06)4963-6916
名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-11-5(エステート名古屋ビル)
☎(052)581-0666 FAX(052)541-2530
四国支店 〒760-0022 香川県高松市西内町4-6(神原ビル)
☎(087)897-2984 FAX(087)897-2986



本社：大阪市西区京町堀1-12-20 TEL：0120-07-0570
http://www.kumalift.co.jp/

あなたのデザインで
スマホケース
1個から!

ネットショップ営業中!
http://chuwa.shop-pro.jp/
中和 オンデマンド 検索

ツイッター
Facebook も更新中
「いいね」をお願いします

がんばれ
トライアンス!

CHUWA 中和印刷紙器株式会社
〒640-8225 和歌山市久保丁4丁目53 TEL.(073)431-4411 FAX.(073)431-8188

水の未来・地球の未来
グリーン阻集器の・・・

PUREPAI 工業株式会社

本社・工場 京都府京田辺市大住池嶋25 東日本営業所 神奈川県川崎市中原区中丸9-431
〒610-0343 TEL 0774-63-7247(代) 〒211-0012 TEL 044-431-0408(代)
FAX 0774-63-7248 FAX 044-434-2621
http://www.purepai.co.jp

一般社団法人 **大阪電業協会**

会長 藤田 訓彦

大阪市北区西天満5丁目6番10号 富田町パークビル
電話(06)6363-4077 ファックス(06)6363-4079

お客様の満足と価値創造の深化を目指して

50th ANNIVERSARY GBRC
一般財団法人 **日本建築総合試験所**
理事長 辻 文三

〒565-0873 吹田市藤白台 5-8-1
TEL 06-6872-0391 FAX 06-6872-0784
http://www.gbrc.or.jp

住まいに、人に、安心を。
住宅情報相談センター
住宅相談・住宅情報提供・各種研修事業
住宅展示場の企画・運営
住宅性能評価機関・住宅保険取扱機関

一般財団法人大阪住宅センター

大阪市中央区南船場四丁目4番3号
心齋橋東急ビル4階
事務局 06-6253-0071
http://www.osaka-jutaku.or.jp

理事会報告

文責 本会事務局

日時 六月十八日(水)十六時〜十七時三十分
場所 本会会議室

出席 理事二八名 監事二名、名誉会長一名

(1) 収支状況について

五期末日の当期経常増減額は、収益六三、六一三、六二七円、費用一八、六九六、四九五円、増減四四、九一七、一三二円を報告して承認された。

収益には尾亀清四郎氏並びに山口良紘氏からのご寄付が含まれていること(松村慶三氏のご寄付は五月報告時点では未算入)、また、会費が対予算で八割弱納付されるのに伴ってCPD登録費も同様に納付されていることが、この時点で収益額が大きい要因である。費用では活動初期で事業経費の動きが小さいために収益額と比例しておらず、したがって増減額が大きくなっていることを説明した。

(2) 今後の財政運営について
本会の現在の状況を踏まえ、二六年度の運営並びに二七年度予算構想に至るまでの予測と対策について検討した。年齢別会員構成では、五〇〜六〇才代が五九%を占めて高齢化が進んでおり、それに伴い定年等で同世代の退会も進むことが懸念される。五〇才以下の層は二七%に留まり、特に若年層の構成率と入会率は低い。個人会員数の推移は二七年度で二五〇〇名台と想定され、非常に危機的な状況といえる。会員増強・退会防止・事業活動活性化等について、役員を中心に活動委員にも早急に体制立て直しに協力願うよう促した。

(3) 日本建築士会連合会会長表彰候補者として、横関正人(現理事)、米井寛(現理事)、竹田敦子(元理事)の三氏を推薦した。

建築相談〜消費者の相談から考える〜

省エネルギーvsコスト

編・構成 橋本頼幸

住宅の価格というのは見えにくいものです。私たち建築士であってもそうなので、一般の購入者に理解してもらうのは相当困難です。今月は、相談員の小松和雄様に話題提供をしていただきました。

△相談内容▽しつくり来ない:

近年「環境」や「省エネ」を謳い文句にした分譲住宅も増加してきています。住宅新築に際し、展示場や分譲地などを回ったが、何かしつくりとしません。違いがよくわからない上に、注文住宅と書いてあるにも関わらず、間取りを変えると価格が上がると言われました。変わる住宅の省エネ基準

住宅に関する省エネ基準は昭和五五年に制定され、平成四年、十年と順次強化されてきました。そして二五年の改定は、従来「外皮の断熱性能」だけの評価に加えて設備で用いるエネルギーの消費量も評価対象に加わりました。さらに、外皮の断熱性能基準も、外皮平均熱貫流率や冷房機の平均日射熱取得率といった計算が必要な基準になっています。

二〇〇八年に改正された省エネ法は、届出義務化の対象を、床面積三〇〇㎡以上の特定建築物にしています。国交省は、二〇二〇年までに段階的に省エネ基準への適合を義務化することを予定しているようです。

一方で、改正省エネ基準は、低酸素住宅の認定基準に採用されています。低酸素住宅の認定を受けると、安い金利で借入れが可能になり、住宅ローン控除の効果も大きくなります。住宅のコスト増

当然のことながら、省エネ基準が厳しくなり、義務化されたりすると、建設コストに反映されてしまいます。一生のうちこそ何度も購入するものではない住宅ですから、慎重にならざるをえません。ただ、建設コストばかりを重視すると、住まい手の希望とかけ離れたものになる可能性も否めません。

供給者側の工夫と住まい手のありかた

住宅メーカーや建売業者はいろいろと工夫をしながら住宅を供給してくると考えられます。住まい手は、果たしてその建物で自分のイメージに合致するかどうかについて、十分に時間をかけて勉強するようになるでしょう。供給者側としては、依頼者の疑問や不安に答えるだけの知識や能力が求められます。

また、省エネは事前のシミュレーションと事後のアフターフォローが大切になります。外皮平均熱貫流率や外皮平均日射熱取得率については、計算する無料ソフトがあり(たとえば「一般社団法人住宅性能評価表示協会のホームページ参照)、簡単に計算できるようになっています。しかし、その計算の意味するところ、何を計算しているのか、どんな目的・効果があるのかなど、技術的な裏付けが必須になります。

省エネ技術の取得はビジネスチャンス!
先述のコストというのは、「インシャルコスト」であり、ランニングコストではありません。省エネが効果的に機能を発揮すると確実にランニングコストを下げる事が可能です。いわゆる住宅の「燃費」が良くなると当然住まい手にとって経済的なメリットが得られます。税金控除なども考慮すると建設コスト増が相殺できる程度になるかもしれません。私たち建築士にとって、省エネ技術の取得は、新たなビジネスチャンスではないでしょうか。

編集後記

筑波幸一郎・牧野隆義・荒木公樹

「建築人(けんちくびと)」は今号で十回目を迎えました。辻野純徳先生は、病院建築の第一人者であり、「建築人」の前身である「ひろば」の創刊時の編集委員を務められていました。倉敷中央病院と辻野先生との四五年来にわたる希有な関係と辻野先生との多岐にわたる取組を伝えることができればという思いで編集に取り組みました。

また、辻野先生が師事された浦辺鎮太郎先生は、「誌名の通り」近畿建築士のひろばを提供する目的に正直に取り組みすることで、そのために衆知を集め各界に広く交流を行う(「ひろば」百号)ことを原則とされてきました。今回の編集では、大阪に留まらず、近畿全体で歩いていくことの意味について考える良い機会となりました。

最後になりましたが、今回の特集で多大なご協力をいただいた辻野先生とユー・アール設計の脇屋泰治さん、米山剛史さん、現地での取材でお世話になりました倉敷中央病院の皆様へ深く感謝いたします。



倉敷中央病院 温室 撮影:田籬哲也





倉敷中央病院 設計 辻野純徳（ユウ・アール設計）

倉敷中央病院は、1923年（大正12年）、「治療本位（研究目的でない、真に患者のための治療）」「病院くさくない明るい病院」を基本理念に、大原孫三郎により設立された。創立40周年の大原総一郎による面目一新宣言を契機に、1969年（昭和44年）から、倉敷中央病院と辻野純徳氏との現在に至る45年にわたる関係が始まった。

以来、50回を超える整備を経て2012年にほぼ全面増改築が完了した。それらの取組については、当初の設計者が主導する方法から、病院経営者・医療者・設計者が三位一体となり、設計（仮説）・追跡調査・検証・設計へのフィードバックを行う方法へと変遷した。第3期工事の完了した1981年当時と比べ、現在の病床数1,161床はほぼ変わらないが、床面積は2倍強、入院患者数は3倍、医師数は4倍、職員数は3倍弱になり、急性医療期を担う高機能病院の役割を果たしている。

1971年に作成したマスタープランでは、病院に欠かせない「成長と変化」を敷地内で順次継続できるよう、2本のグリーンベルト沿いに南北の幹線廊下を設け、ホールや支線廊下を東西方向に延長しながら各室に至る計画とされた。この病院の廊下は、単なる機能的な動線に留まらない、人と人・建物・自然をつなぐ「みち空間」の役割があると理解した。これらは、度重なる増改築のための軸となるだけでなく、長い時間をかけてできる街や集落と同様に、人間の生命の営みにふさわしい場を実現させている。辻野純徳氏の病院と一体となった長い取組の貴重な成果である。

写真：田籠哲也、三輪昌央 文：河野学+荒木公樹

